

樂水

一月號

昭和十二年三月三十日第三種郵便物認可
昭和十三年一月十五日發行

第三十三卷第一號（第三二二號）

會 告

例年開催する新年宴會は都合に依り今年は取止め
まして恒例の十五日會を左記次第に依り開催致し
ますから、萬障繰合せ御出席下さい。

記

期 日 昭和十三年一月十七日(月)午後五時

場 所 東京市赤坂區 三會堂

研究發表會 水産研究誌二月號論文發表

講 演 南京城攻撃に従軍して 某新聞記者(交渉中)

會 費 五十錢

昭和十三年一月

社 團
法 人

樂 水 會

水 楽

第 一 第 ・ 卷三十三第

一月號 目 次 (通卷三七二號)

卷 頭 言	杉 浦 保 吉 (二)
石川縣に於ける代表的鱒漁場に就いて(其の一)	勅使河原 實 (三)
滿洲の水産業(三)	庄 悅 二 (二)
追 想 斷 片	金 子 尙 (一九)
陣中より動物標本	久保伊津男 (三)
劍友會の集ひ	(二四)
新水會の集ひ	(二四)
會 員 移 動	(三)
紋 任 辭 令	(三四)
狂歌うろくす集	もづめの宿禰 (三五)
編 輯 後 記	(四)
御 詫 び	(一〇)

卷頭言

杉 浦 保 吉

非常時事變下の新年を迎へ、謹みて

聖壽の萬歳を祝し奉り、併せて皇軍將兵の勞苦に對し、深甚の感謝を捧ぐ。

思ふに現代の戰爭は、戰場に於ける武力の戰爭のみでは無い。經濟・産業・外交・宣傳・思想・科學・その他、國の全能力を擧げての戰爭であつて、此等の總てに打勝たなければ、敵國膺懲の目的は達し得ない。國民總動員の所以である。戰線が擴大し、事變が永引くに從ひ、軍需品の供給に、産業の進展に、吾等は幾多の艱難に遭遇することあるべきを覺悟し、堅忍持久、以て新資源の開発と、生産力の擴充とに全力を傾注し、「産業報國」「科學報國」「教育報國」の實を擧げなければならぬ。

彼の四年有半に互つた世界戰爭中、軍需品に關する科學的研究の成果は、平時の四十年間のそれに匹敵し、獨逸産業のあの顯著なる進展も、戰時中に於ける科學的研究に負ふところ大なりといふ。吾々日本民族も亦、艱難に遭遇する毎に之を克服し、常に 皇道の宣揚と産業の進展とに、劃期的の實績を擧げて來た。水産罐詰の進歩の如き、亦その尤なるもの、一つである。そは皆、人の眞劍的努力が然らしめるのである。今次事變も亦、吾等に一大發展の機會を與へてゐる。唯だそれその成果如何は、懸つて一に吾等國民の奮起と眞劍さとの程度に在る。

石川縣に於ける代表的鯽漁場に就いて（其の一）

勅使河原實

はしがき

石川縣沿岸に素餌又は産卵洄游する各種魚族は暖寒二潮流の影響を受けるものにして、冬季に於ける代表的なる魚族は先づ鯽、夏季に於ける其れは鮪、鯖等である。能登半島は日本海に於ける洄游魚族の所謂交通の衝に當り、去來も頻繁にして、沿岸線百五十三里の間に點在する各部落太古より沿岸漁業の發達著しきものあり爲に、沿岸漁業の極度の發達に比し、沖合又は遠洋漁業の發達は餘りにも遅々として進まず、未だに沖合漁場を操業區域とする、機船底曳網漁業を除いては見るべきものなき現況なり。

代表的漁場を御紹介申し上げる前に順序として縣下全般に於ける鯽漁場の概況を御紹介申上る。

一、縣下に於ける鯽漁場の概況

縣下に於ける鯽漁場——定置漁業に依る鯽大謀（敷）網を指す——は總て富山灣に面する能登内浦に在りて、此間の區域は珠洲郡三崎村長手崎より鳳至郡を経て富山縣界鹿島

郡南大吞村に至る海岸線延長三十餘里にして、鯽大謀（敷）網及鯽臺網としての免許件數、十八統、鯽を漁獲し得るに適せる、^{フシヤ}鯽大謀若は鯽角網五件を數ふる事が出来る。之等の漁場は舊幕時代より連續して現在に至りたるものや、政黨華やかたりし時代忽然と現はれたるものや、漁場價値維持の爲に出來た保護漁場等玉石混合ならざる亂立で五、六の漁場以外は濟度し難き漁場の様に思はれる。

漁業時期は何れも十月一日より翌年一月三十一日と限定せられてゐるが、鯽大謀網又は鯽角網等にありては七月三十一日まで鯽網より期間が長いのである。

昭和十一年度に於ける、實際操業せる鯽漁場は第一圖に示せる通にして、十統（一統は夏網にして能登外浦に所在）漁獲高、三十八萬七千餘圓なり。其の漁場別漁獲高は第一表の通なるも、先刻御承知の通何處でも實際手取金などは伸々判らぬもので先づ表に示す數値の三割乃至四割増位に御考へ被下ば當らずとも遠からざるものと思惟せらる。斯

く考へる根據は一、漁業税が五千圓増す毎の累進的である事、(漁業税課税に付ては後記する)二、免許の漁業時期は自十月一日であるが事實は、各漁場共二月中旬頃迄經營する(勿論違反ではあるが)事等が擧げられる。

尙鮭漁場として最近急激に、特別漁業第七種漁業鮭飼付が經營せられんとしてゐる、未だ免許漁場五ヶ所にして、本年より(九月一日以降)着手にして目下經營中の爲成績不明なるも、石川縣に於ける革新的漁業が行はれんとする事を特に記して置く。

二、代表的鮭漁場

此に代表的鮭漁場と稱するは、縣下鹿島郡北大谷村字庵地先に設定せられたる鮭大謀網漁場にして、其の登録上に於ける全貌は次の通である。

一、免許年月日 昭和八年十一月二日

一、免許番號 第三三一五號

一、漁業時期 自十月一日
至十二月三十一日

一、漁業權存續期間 自昭和八年十一月二日
至昭和十八年十一月一日

一、漁業者 代表者外六十六名

此の漁場は岸端鮭大謀網組合なる名稱の元に、漁業權者、投資者のコンビに依り經營せられつゝあり。漁獲高に於て、漁場規模に於て、漁場の良好さに於て眞に、本縣代表

的漁場たるに恥ざるものなるが、決して一朝一夕に出來たるものに非らずして、長年月因襲の城塞に立籠りたる二漁場が、人智を絞る財力の總てを費し、法規に因り抗争したる結果諦に似たる覺醒的最終の效果に外ならざるものであつた。次に其の概要を記す。

三、岸端鮭大謀網漁場の出来る迄

本漁場は元來同一村内に於て相隣れる江泊部落及庵部落が各々所有せる鮭漁場を基礎として、前述の如き闘争を行ひ一步一步合同への針路を進み漸次合同の完成を爲したるものなるが、兩漁場共其の因縁關係淺からず舊幕時代より互に相反同せるものの如し。舊漁業法發布頃より漸次紛争表面化し明治三十五年十二月には、既に免許漁場を享有し居たる江泊部落民は、明治三十四年二月免許せられたる庵部落の漁場、魚道を遮斷し漁獲皆無となる理由の元に「漁業者御保護方ノ儀ニ付願」なる陳情書を提出し、火花を散らしてゐる。當時の漁場は鮭臺網と稱し、沖垣網の長さ五〇〇間、磯垣網の長さ三〇〇間位にして、兩垣網の角度百二十度位、兩垣網の交叉點に簡單な身敷を付した、極めて原始的なものであつた。其の後兩漁場共、漁場區域の變更、或は拋棄新願等あらゆる手段を盡し、相互に牽制し、從來明治、大正、昭和と、合同に至る迄實に三十餘年間に亘り抗争を爲したるものにして、其の間五十萬圓事件等微

笑ましき、エピソード等を残したるも、之が内容に付ては他日に譲る事にして、大詰への経過を拾ふ事にする。

昭和四年二月十日發行、石川縣水産會々報に依れば、昭和三年、同會内に石川縣漁場整理調査會なるもの誕生し、會長に現帝水顧問青山憲三氏就任し、幹事、特別會員（縣技術官）、會員（漁業有力者）、實行委員等を設け、之が事業を爲す事になれり。

第一段として、同年三月九日隣縣富山縣に於ける此種整理の成果甚だ大なるに鑑み、三名を該縣に派遣し實績を調査せしめたり。右資料を參考として協議會を開催する事とせり。

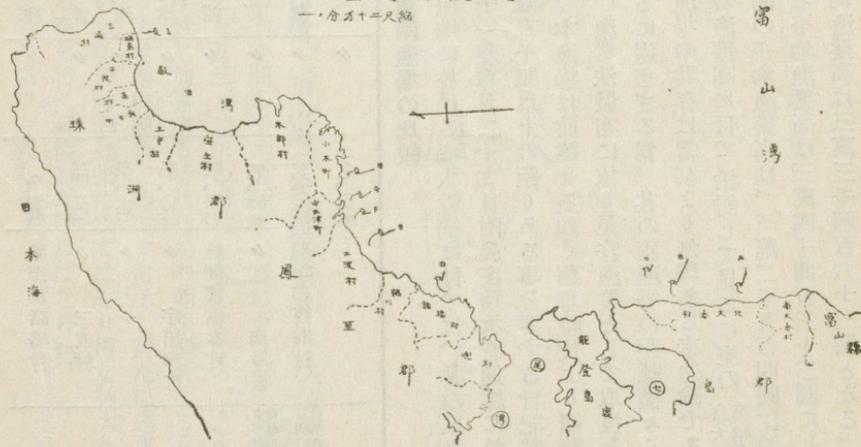
第一回協議會を昭和三年九月七日、石川縣廳内に開催し協議事項を左の通決定せり。

- 一、事業着手ノ際ナレバ整理セムトスル範圍ヲ定置漁業中蘆及鰯ノ兩種漁場トスルコト
 - 一、整理後其成績思ハシカラザル場所アルトキハ復舊シ得ル様従前ノ既得權ヲ尊重スルコト
 - 一、先ヅ庵及江泊、古君及前波、藤波及波並等ノ整理ニ着手シ其ノ地隣接各漁場ニ就テモ調査研究スルコト
- 右の申合せに依り第一番として庵及江泊の整理問題が擡頭した譯である。

次で引續き協議會を重ねる事前後四回にして、勿論議論

第一圖 昭和十一年度於石川縣大體網
敷設漁場圖

一、分百十二尺縮



沸騰、憤然席を蹴つて會議を脱する危態もあつた様であるが、大體江泊及庵兩漁場の合同が成立した譯である、然し合同の内容は左の通であつて、完全なる合同とは認め難いのである。即ち江泊及庵兩部落民共有の兩漁場の免許は其儘存置し、毎年交毎に兩漁場の内一を操業し其の經營費は兩部落の共同出資と云ふ事に決定した、同時に漁場名稱を岸端と稱し申合組合を設立した。其の後三ヶ年間各漁場を交毎に經營せるも兩漁場の中間に於て極めて良好なる漁場在るを發見し、既存の免許漁場を其儘とし新に免許漁場を得右漁場に於て、漁業經營を爲す事になり、昭和八年以降漁場交代する事なしに現在迄新なる漁場に於て經營する事となつた。

然し遺憾なる事、舊漁場が其儘免許せられ居る爲、往々合同分裂を豫想するが如く舊兩漁場の變更が企てられる事である。

第一表 漁場別漁獲高表

付號	漁場名	漁業名稱	漁獲高	漁場位置	備考
A	佐々波	鱒大謀網	九、〇〇〇 ^円	鹿島郡北大谷村	
B	岸端	〃	一三、三三三	〃	代表的漁場として紹介せんとするもの
C	大野木	〃	三、〇〇〇	〃	

計	I	H	G	F	E	D
風無	蛸島	小浦	宇出津	藤波	波並	古君
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三、七、二五	一七、四五	三、五七	三、〇三	三、四三	二四、六〇	九、七〇
羽咋郡西海村	蛸島村	珠洲郡小木町	宇出津町	〃	三波村	鳳至郡諸橋村

四、新舊兩漁場の比較

概ね平坦地に於ける鱒大數網に付ては、其の取扱例として明治四十一年六月二十九日附農商務次官通牒に於て、兩漁場の距離五千間以上の距りある事を要する旨記載せられて居るが、本漁場は前述せる如く舊幕時代より繼續せるものにして、漁業法發布に依り免許漁業として取扱を受くるに至りたるに過ぎざる爲、其の兩漁場の距離僅々八百間餘にして兩漁場の共存は當初より無理ある事勿論である。

今既住の漁獲高に付て検討して見るに庵の 自大正十一年至昭和四年 間八ヶ年間の平均漁獲高は、三萬二千五百四圓江泊の同年間に於ける平均漁獲高は三萬四千四百三十三圓にして、兩漁場の平均漁獲高は三萬三千四百六十三圓となる。然るに

第二表 江泊、庵兩漁場ノ合同前ニ於ケル漁獲高表 (單位圓)

漁場名	年次	
庵 江 泊 合 計 平 均	大正十一年	九四、〇〇〇
	大正十二年	三三、七五五
	大正十三年	一七、〇七三
	大正十四年	一七、七五
	昭和元年	五六、〇〇〇
	昭和二年	一一、〇〇〇
	昭和三年	三三、〇〇〇
	昭和四年	二〇、一三八
	一ヶ年の平均	三三、七〇二
	大正十一年	七五、〇〇〇
	大正十二年	五〇、〇〇〇
	大正十三年	二四、〇〇〇
	大正十四年	一一、一三三

第三表 岸端漁場漁獲高表 (合同後ノモノ)

年次	漁獲高
昭和五年	五〇、七六八
六年	五七、〇三三
七年	一五七、一五六
八年	一四〇、〇〇〇
九年	一六三、三三八
十年	八三、四六〇
十一年	一一三、一九三
合計	七五、七四八
平均	一〇七、六六八

五、岸端漁場と縣下總漁獲高との比較

(一) 總漁獲高に對する比較

前掲の通本漁場の過去七ヶ年の平均漁獲高は十萬七千九百六十八圓にして、同期間に於ける縣下總漁獲高二百五十二萬八千三百三十七圓、其の一ヶ年平均三十六萬千九百九十一圓にして、總漁獲高の三分の一は本漁場により漁獲せられる譯である。

(二) 總漁場に對する比較

次に同期間内に於ける經營統數と本漁場との比を見るに、其の延經營統數、六十六統、一統一ヶ年平均僅に五千四百七十二圓に過ぎず、實に本漁場は其の平均値の二十倍に垂々とする有様である。

次に右に對する參考表を掲ぐ。

第四表

年次	昭和五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	總計	一ヶ年平均漁獲高 一統平均漁獲高
縣總漁獲高	一八四、七六八円	三三五、七五円	四三六、五六八円	四七七、六六九円	四七八、七七五円	三四〇、三九九円	四〇八、一五五円	二、五三八、三七七円	三六一、一九一円
同漁場數	七統	一〇統	八統	九統	一〇統	九統	一三統	六六統	五、四七三円

六、漁場及漁獲魚族

(一)地勢及交通

鹿島郡北大杵村庵及江泊部落は能登半島の附根石川富山兩縣に跨る、一帶の鬱蒼たる山岳の一部伊掛山(標高八二七)の佇立する山麓にして、山林海岸に迫り交通は海岸に沿ふ小路あるのみにして、荷車の通行も覺束無き程なり、海深く陸岸に迫り、遙に富山灣を距て、館山連峰を望む誠に風光明媚の土地にして漁場は江泊及庵の略々中間の地先に廣大なる區域に亘り敷設せられてゐる。

本漁場への交通は七尾線七尾町よりバスにて山越して約四十分で達する事が出来る。又七尾町より日一回の定期發動機船がありて同地に達する事は容易である。漁獲物の運搬は總て漁場より直ちに曳船により富山縣永見町又は七尾町に運搬せられてゐる。

(二)漁場の規模及水深

本漁場の區域は第二圖に示す通にして、磯垣網の止は陸岸より二百七十間、沖垣網の止陸岸より千九百八十三間にして漁場區域の總長實に千八百間に及ぶ廣大なる漁場である。其の規模の要點左の通である。

沖垣網ノ長 一二五〇間
磯垣網ノ長 五五〇間
身網
長 サ 二〇〇間
臺ノ廣 サ 三〇間
端ノ口 四〇間

本漁場に於ける水深は第三圖に示す通にして、漁場區域十五尋より九十三尋に亘る水深上に位し、沖垣網の先端百尋線に垂々とし、漁場の前面には廣大なる海溝(當地方フケと稱す)在りて、網口近くに迫つてゐる。

漁場各要點に於ける水深は左の通である。

北ノ臺 二十七尋

南ノ臺 二十五尋

端ノ口 二十五尋

沖垣網ノ止 九十三尋

磯垣網ノ止 十五尋

(三)隣接漁場との關係

本漁場の價值に絶對的關係を有する隣接漁場との關係は、同村字々波地先に設定せられ在る鰯大謀網(通稱佐々波漁場)にして、右漁場と本漁場との間隔は、

沖垣網ノ尖端間ニ於テ 二、四〇〇間

端ノ口間ニ於テ 二、七五〇間

磯垣網ノ止端間ニ於テ 三、〇〇〇間

にして、距離に於て相當大なるものとは認め難きも、海深及地勢上より見て、經營上十分安心し得る間隔あるものと思はれる。石川縣漁業取締規則第四十條の規定には鰯の定置漁業に付き左の通示されてゐる。

同一漁業時期ニ於ケル鰯ノ定置漁業ハ出願漁場ト既免許定置漁業ノ漁場トノ間隔左ノ距離ヲ有セザレバ之ヲ免許セズ

前後各千五百間以上

従がつて右の規則よりすれば、本漁場と佐々波漁場との中間に(網口片口なる時は右の規定距離を適用せざる但書

あり然して、兩漁場共片口なり)新に免許を爲す事も出來ざる譯ではないのだが、前述せる如く庵及江泊の各漁場未だ現存し、其の漁場の規定距離は大いに活動し、完全に保護網の役目を果してゐる譯である。

尙取締規則第四十二條には保護區域を左の通設け同區域内に於ける魚群逸散行爲を禁じてゐる。

沖 六〇〇間

前面 一、三〇〇間

後面 二、〇〇間

之を要するに本漁場は隣接漁場より主として前面漁場より恐威を受ける事なく且つ前面漁場を十分牽制し得る位置に在り、誠に好漁場と謂ふを得べし。(つゞく)

お詫び

本號は編輯後記に説明の通り事變記事及一般同窓記事のみを登載する豫定で編輯しましたところ、十二月二十八日に到り事變記事全部が當局の檢閲に間に合はず、従つて右記事全部を削除致しました。何卒不惡御容赦下さい。

滿洲の水産業

(三)

庄 悅 二

二、淡水漁業

滿洲の淡水漁業は海洋漁業と實に表裏の關係ありて滿洲水産業の特徴と云ひ得べきものである。即ち冬季に於て、海洋漁業は、海洋の結氷に依つて、其操業中止するに反し淡水漁業は朔風肌をつんざき萬象悉く凍る、沍寒の候に賞に活氣を呈して來るのである。

其産額に於ても之を滿鐵水産物貨物統計に依つて、一例を大贛站にとりて示せば表の如く冬季(十一、十二、一、二月)の他季に比し如何に殷盛なるかを知る事が出来るだらう。

此主要なる原因として、項目に分けて示せば次の諸點を擧げ得る。

- 一、捕獲せし魚族は、零下三十餘度の寒冷に天然に冷凍される事、即ち商品として水産物の最も弱點たる「腐敗し易すき」點を除去される事なのである。

月 別	出貨噸數
庚二 11月	588.1
◇ 12月	3180.1
庚三 1月	1432.4
◇ 2月	464.2
◇ 3月	392.4
◇ 4月	226.5
◇ 5月	338.8
◇ 6月	116.6
◇ 7月	62.6
◇ 8月	21.0
◇ 9月	51.7
◇ 10月	103.32

二、凍魚なるため運搬取扱及取引に便なる事。

三、水族は水溫の極度の低下の爲所謂灘(深部)に集まり冬眠状態にて捕獲に便なる事。

四、滿洲人は古來「舊正月には三生品と稱して、豚、魚、雞の鮮肉が無ければ、正月が越されずと云ふ習慣と且つ就中魚(ユイ)は餘(ユイ)に通じ將來餘融あ 生活を送ると云ふ芽出度の語韻ありて如何なる窮民と雖も之を購はんとす、即ち習慣より來たる凍魚ノ消費大なる事。

以上の如き有利なる諸條件を具備せるを以つて運賃の引合ふ限り販路自由にして、昔時達賴湖(興安北省)の大型凍

魚がモスコイ市を賑はし曾つては巴里の市場にまでも進出せりと聞く。

而かも上述の如く需給の關係非常に恵れいるため短期間其漁獲は多量に産出するも單價比較的高く産地に於ても夏季の倍若くは一倍半に評價され其大部分は大消費地に向り搬出さる。

次に各水系に屬する河川湖沼の漁業狀況を概説せば左の如し。

ロ、松花江水系

本水系は之を分ちて、松花江本流、第二松花江及嫩江にして全滿河川漁獲高の約八割餘を占むと云はる。

A、松花江本流

松花江本流は大賚附近(三叉河)にて、興安嶺より發したる嫩江及び長白山にその源を發し吉林省を貫流せる第二松花江を合し東進蜿蜒々一、二〇〇軒を、坦々たる平野を曲折緩流し黑龍江に注ぐ。其間本流の移動により數多の溢流及河床の遺跡たる沼澤を伴へり。

此溢流及河床の遺跡は魚族の産卵場として最も適所に於て、同時に漁場として最も好適なる場所なのである。漁期は大體春秋冬の三期に分れ夏季は増水氾濫の爲漁撈に適さず。

朝期 (陽曆)自四月中旬至六月下旬

秋期 (陽曆)自九月初旬至結氷期

冬期 (陽曆)自十一月下旬至一月下旬

捕獲される魚種は經濟魚種としては、二十種餘なり、即ち鮑魚(鮑)鯉魚、草根魚、胖頭魚、鰻條魚、偏花魚、吉魚、蟲々魚、白魚、紅尾把、麻連魚、黃姑子、鮎魚(鮎)缶牙子、鰲花魚、狗魚、黑魚(鱔)を主とし其他發羅魚、折羅魚、雅魯魚、青根魚、紅眼魚、牛尾魚、松花江本流に於て行はれる漁法左の如し(漁具及漁法は後に詳述す)築子、律獲網(張網)、鐵脚子網、圪網、大網、小網、旋網、快鉤、鈍鉤、靱鉤、卡子、絲掛子、魚國等なり。

B、第二松花江

長白山西部に發したる第二松花江は、安東、吉林を貫流して濱江省三岔河附近にて松花江本流合にす全長六六一、〇〇軒

漁期は殆んど春秋二期にて、唯老哨溝附近のみ冬期漁業行はる。

春期 (陽曆)自四月中旬至六月下旬

秋期 (陽曆)同自九月初旬至結氷期

漁法は松花江本流と大差なし。

漁獲高二五、〇〇〇、〇〇斤、一五〇、〇〇〇圓と推定さる。

C、嫩江本流

本流は大興安嶺に源を發し蜿々一、一〇〇料其間甘河、諾般河、雅魯河、洮兒河を合し興安東省、龍江黑河吉林の各省を聚水しつゝ南下大賚附近にて松花江本流に併流する大河川なり。

古來漁業の盛なる水域にして其漁獲高も五五、〇〇〇、〇〇〇斤、二、七五〇、〇〇〇圓と稱せられ北滿淡水漁業の半ば以上を占む。

漁業の時期は春秋及冬期なるも特に冬期漁業盛なり。

春期 (陽曆) 自四月中旬至六月中旬

秋期 (同) 自九月下旬至結氷期

冬期 (同) 自十一月下旬至一月下旬

本流域にて行はるる漁法の主たるものは、

一、冬期漁業用具

大網、小網(小拉網)、梘子、氷槽子

二、夏期漁業用具

片子網、小拉網、鐵脚子網、帶河網、絲掛子、旋網、

扒網、快鈎及鈍鈎(延繩)、圍

等なり。

漁獲物としては、鯽魚、鯉魚、鰲花魚、重唇魚、狗魚、

小白魚、嘎牙子、鯰魚、細鱗魚、折羅魚、紅尾把、黑魚、

草根魚、胖頭魚、遍花魚、甲魚の十六種に及び。

尙、哈螺(カラスガヒ)は敖乃屯より下流帯に棲息し鯉魚

(鰈鮫)も時々本流に於て捕獲さる。

D、牡丹江

本江は源を白頭山北側牡丹嶺に發し、北方に流れ鏡泊湖に至り、鏡泊湖より更に二條の吊水樓瀑布を形成し落下北走し依蘭に附近に於て松花江本流に合す、其延長六六六料に及ぶ。

漁法としては、梘子、夏季大網、扒網、張網、絲掛子、

快鈎子等なるも流域地方人口稀薄にして交通不便なるため漁業不振にして僅かに沿岸住民の需要を充たす程度なり

E、鏡泊湖

鏡泊湖は牡丹江省寧安と吉林省敦化との中間に位し、浴岩流に依りて牡丹江の一部を堰止められて出來た湖にて水深二十米、最深部四十四米、九十二平方料、山紫水明、水澄み、魚種豊富にして、將來之が開發施設をなすべく計畫中なり。然れども交通不便匪害の關係上漁業振はず。

上記松花江水系に於て、漁獲さるる水族は八十一種のものに及ぶも其主たるものを掲ぐれば左の如し。

經濟魚種 鯉魚、鯽魚、鰲花魚、白票子、黑魚、遍花魚

狗魚、草根魚、黃姑子、紅尾把、重唇魚、嘎牙子、胖

頭魚、兔子魚、者羅魚、達碼哈魚

經濟價値小るもの 干條魚、吉句魚、船丁子、紅張正子

牛尾魚、青根魚、麻速魚、牙羅魚、老母朱、麥穗魚、

山年魚、沙姑鱸子、發羅魚、泥鰍、鰻魚、青鱗子、葫

芦子魚、團魚

口、烏蘇里江水系

A、烏蘇里江

興凱及其の東西の山池に源を發したる烏蘇里江は北上し滿蘇國境を形成しつゝハバロフスクに至り黒龍江に合す全長九〇〇浬。

本江に於ては他水系に比し鮭鱒等の遡河魚類を饒産す。

漁期は鮭の産卵期たる陽曆九月十日より三十日に至る約二週間最も盛にして、漁法は對岸露領に於ては尊ら網を使用するも滿洲船岸に於ては快鈎(空釣)を主とす、他は見るべき漁業なく橈子の經營する位なものなり。

B、興凱湖

興凱湖は滿蘇東部國境中間に位し其の三分の二は露領に屬す。

本湖は其形状倒卵形にして、其水面積約四、五〇〇平方浬と稱されるも水深淺くして、最深部と雖も五米内外なりと云ふ。

鯉、鮒魚、鰻等豊饒なるも附近人口稀薄にして需要少きため從來漁業として見るべきものなく僅かに半農半漁の滿鮮人二、三十戸を數ふるに過ぎざりしが治安の確立と移民

の入植とを相待つて將來其開發頗る期待さる。

ハ、呼倫湖水系

本水系に屬するは、達賴貝爾湖、貝爾湖、烏波湖の三湖と烏爾順河(ウールジュン)河、克魯倫河の三河川、達賴湖は一、六〇〇平方浬にて琵琶湖の約二倍半貝爾湖は五七〇平方浬にて略琵琶湖に等しい。

蒙古人は宗教的習慣上漁撈を行はざるため往時は魚族の繁殖に委ねられしも東支鐵道敷設と共に露人に着眼せられ漸次盛大となり一九一〇年より一九一四年の間には漁場三十ヶ所を數へしと傳へらる其後一九一七年露國革命につゞく烏爾順河大減水之に伴ふ濫獲酷漁等の原因により、次第に衰微し嘗ては八、〇〇〇艘、二百萬團に達せしも現在は唯貞爾湖より游出する魚類により僅かに達賴貝爾湖及其附近の河川に依つて行はるるに過ぎず。

之が漁法としては曳網一種に限られ、夏季はオルシユレ河、冬季はグライ湖にて行はる夏季漁獲せる魚は冬期に至る迄漁圈(畜養池)中に放養され魚種は他水系に比し種類少く、鯉魚、鮒魚、白魚、狗魚、蟲々魚、チヨバカ(ウグヒ)等に進ぎず、ハラヘン河の上流に於ては清流なるを以つて煮羅、細鱗魚等の鮭鱒族が見られ、グライ湖には蝦ボイル湖には鳥貝棲息が豊富なり、康德三年に於ける年産額五、六〇〇、〇〇〇斤、三五〇、〇〇〇圓なり。

ニ、額爾古納河及黑龍江水系

國境河川に屬し、全長四、〇五〇軒に及び相當多種の魚族の棲息を見るも人煙稀薄の爲滿洲國側では殆んど見るべき漁業行はれず。

北滿河川漁具(湖沼漁具ヲ含ム)

築子

漁業ノ種類 定置漁業

漁業ノ名稱 築網漁業

漁期 十月中旬—十一月中旬、十一月下旬—一月

下旬

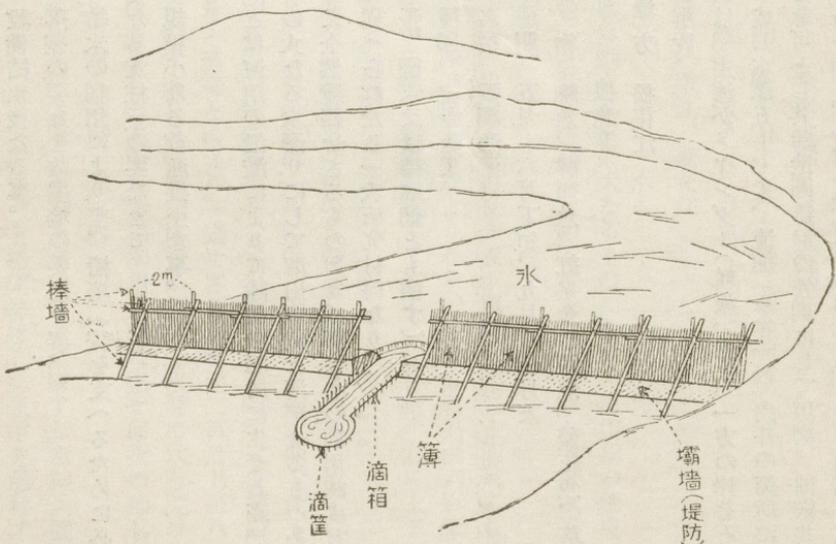
採捕物 鮎魚、鯉魚、雜魚

使用地方 嫩江、松花江、其ノ他北滿河川

漁具ノ解説

夏期河水の氾濫する時期に於ては魚類は泡(水溜り)又は小支流に蝟集するを以て、減水に先だち、入口を遮斷して魚類の遁出を防ぎ、冬期減水に乗じて、本流に出でんとするを漁獲する趣向なり。本漁具は柳條を編みて作れる簀(籐)と樋(淌箱)刈(淌篋)の三部よりなり草杯(芝士)を積みて、堰塊を築き建設するを普通とすれども地形により必ずしも堰堤を築造せず樋及刈は柳條を以て編み、樋の内側には「アンペラ」(蓆子)を敷くものとす。漁法は結氷期を待ちて、堰堤の一部を切り、水と共に流出する魚を樋にて誘導

築子 漁場



し、川上に落して溜りたる魚を漁獲するものなり。初冬期結氷前に捕獲するものを明水築子と稱し落口には囊網を附したるものあり、冬期結氷後に行ふものを氷張に稱す。

水槽子

漁業ノ種類 定置漁業

漁業ノ名稱 築網漁業

漁期 十月中旬至十一月中旬、十二月下旬—二月

採捕物 鮒魚、鯉魚

使用地方 嫩江、松花江本流

漁具ノ解説

初冬期河川に於ては魚類は流水の岸を嚙む音に、驚きて泡に遁入するを以て、泡の入口に柳條又は高粱桿を編みて作れる簀を立て、魚類を魚捕部に誘導して漁獲するものと魚類の泡に遁入せる折りを見て泡の出口に簀を立て結氷後本流に遁れんとする魚の道を斷ち之を兩側の魚捕部に誘導して漁獲するものとの二様あり、何れも魚捕部に溜りたる魚を氷に穴を穿ちて又手網を以て抄ひ捕るものなり。

上記築子とは密接なる關係を有し、大出水時築子の壩壙(堤防)破壊されし際は直ちに水槽子漁場として豫り、築子漁業の缺損を補ふが如き關係あり、此兩者の相異點を擧ぐれば水槽子は

1、設備費の僅少な事。

2、設備結氷後なる事。

3、落差の要なき故壩壙の要なき事。

4、結氷の利用によりて、槽壙(簀を支へるために必要なる支柱)の要なき事

5、規模小なる故漁獲少き事。

の如し。

註、泡とは河川の氾濫によりて陸地の凹所に生ぜし滿洲特有の大なる水溜りにして河川本流と連絡せるものあり、又全然連絡せざるものあり。將來泡の利用法は我々に與へられたる一大研究材料なり。

張網(又は待獲網とも稱す)

漁業ノ種類 定置漁業

漁業ノ名稱 張網漁業

漁期 五月—六月下旬、九月—十月末

採捕物 鮒魚、胖頭魚、紅尾魚、鯉魚、鰲花魚、草

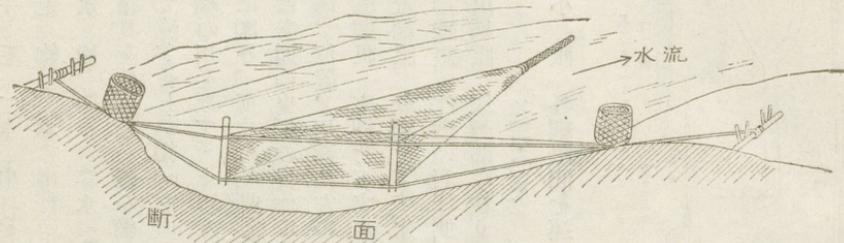
根魚等

使用地方 松花江

漁具ノ解説

本漁具は、主流がメヤンダー(蛇流)して、一方の岸をそぎ崖を形成し水深五—七米、流速一米(一秒)内外の箇所を設置するを可とし其構造圓錐形の袋網にして垣網、袖網共に無く網口を聞かしむるため二本の棒を網口の兩端に立

張網略圖



て、口を矩形に開か
しめ鯰網の如く魚類の
流に従つて下り來るを
捕へんとする消極的な
る漁法である。陸と柱
木及魚捕部は手繩を以
て連結し之を手繰して
船を往復し漁獲を便に
なす。

現在、夏季漁業の王
座を占め夏季漁獲高の
六割七分を擧げ従來北
滿淡水漁業の王座に在
りし築子漁業を凌駕せ
る状態にあるも稚魚の
濫獲の弊あり將來繁殖
保護上考慮すべき漁具
なり。

冬期大網

漁業ノ種類 定所拉網

漁業

漁業ノ名稱 大拉網漁

業

漁業ノ名稱 冬季大網又は串鈴網

漁 期 舊十月下旬小雪後—舊正月

採捕物 胖頭魚、草根魚、鯉魚、雜魚

使用地方 嫩江、松花江

漁具ノ解説

本漁具は移動漁具中最大なるものにして、河川用の地曳網なり。築子と共に冬期漁業の双壁として知られ其歴史百年以上を有す。

其構造普通一片(一枚)の長さ五十四尺、幅二十四尺にして、一統三十四乃至五十片よりなり、全長五百乃至六百米なり而して中央部に網堵と稱する單に一片を折半して上下縁をとちたる魚捕部を備ふ。

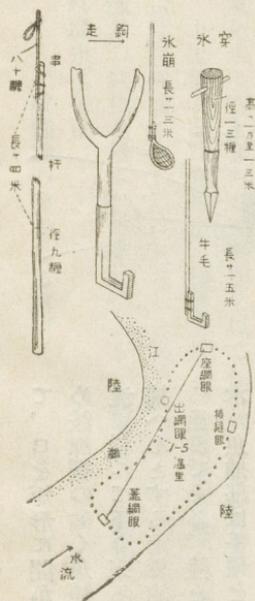
網地は麻又は綿絲三寸目のもの多し浮子は大サ(二一・〇×七・〇×四八糎)のもの一片に付三十乃至三十二個、沈子はなく、一統の兩端に卵石(八乃至十斤)を附す、曳網の長さは水量と漁場とにより一定せざるも普通二百尺乃至八百尺とす、尙本漁具は結氷期に行ふ關係上氷層に穴を開けるべき附屬漁具を有す主なる操網用具を略記せば次の如し

1、氷穿 六個 穿水器

2、串朴 二本 曳網を結水下に誘導する水線(圖示)を結ぶ棒にして水下を潛行す

3、牛毛 二本 串杆を氷下にて前進せしむる道具
 4、走鉤 二本 串杆の方向を定むるに使ふ道具
 5、氷崩 四本 穿氷の際氷片を掴ひ捨つる道具
 之等の諸具を使用し一統の網を二分し蓋網(上手より魚群を逐ふて流下せしが網)と座網(流下し来る魚群の退路を斷ち待網の用をなす)となし、圖示の如き氷穴の下を両手廻しに圍み、所定の場所(接縫眼)にて、上下兩網を連結し其後は普通の曳網の操作により出網眼より網を引揚ぐ氷穴の名稱、位置、用途は左の如し。

- 1、座網眼 座網を下す氷穴大サ一・四×一・六米
- 2、蓋網眼 蓋網を下す氷穴同右
- 3、接縫眼 江灘の對岸側に在り、大サ同右
- 4、出網眼 江灘部に在り網を曳ぐる氷穴大サ二・〇×二・〇米
- 5、小眼 各網眼間を連ねる氷穴大サ徑五十糎



大體圖示の如きも狀況により配置に多少の差異あり。
 本漁具操業の際は六十名内至百名の従業員を要す、揚は江灘と稱し淺瀬を撰定す。

同じく冬季漁業にて野泡網(又は野網)と稱するあり、湖沼漁業にて泡子に於て行はる。

夏期大網(又は明水大網)

漁業ノ種類 定所拉網漁業

漁業ノ名稱 大拉網漁業

漁 期 自三月中旬至五月節句、自仲秋至十月下旬

漁 獲 物 胖頭魚、鮒魚、紅尾把、狗魚、遍花魚、白魚、鰻條魚、鯉、草根魚等

漁具の解説

本漁具は、魚捕のなき地曳網にて江灘(僧斜緩なる網引上げに便なる場所)漁場にて操業せられ普通沈子なし、一統三十五乃至四十五片よりなり、一片の長さ約十二米にして全長大約四百乃至六百米、網目七乃至十糎にして全部一様なり、即ち前記冬期大網と大差なく、唯大さ冬期に比し小さきと船を使用する點のみ。夏期大網を冬期大網に使用するものあり。

従業員數は網の大小によりて異なるも十六名乃至二十五名なり。

追 想 斷 片

金 子 尚

ケ チ ヨ ン

考へて見ると、我々のクラスには随分と明朗そのものと云ふ様な男が多かつた。八噸蠟燭の話を眞面目に稱へる者や、アンカーを備付けた汽車の話をする者など、兎に角此の方面には多士才々であつた。此等の四天王、三羽鳥などと云はれた中、常にその横綱の地位を確保してゐたのは、君——即ち三木君であつた。此處で敢て、三木君と舊姓を呼ぶ理由は、斯う呼ばねば君の實感が出ないからである。三木君と呼んで始めて、君が汚れた寝衣を着て、細いヒモを長く結んで、童顔に笑をたゞへて、洗面所へ通ふ圖が想ひ出されるのだつた。君は洗濯はあまり好きでなかつたらしい、否汚くしておく事が趣味だつたかも知れぬ。

ガスに包まれて、太陽を見ぬカムチャツカの船中は、若い血潮のたぎつた連中に取つては、實に單調な、無聊な幾月かであつた。此んな狀況に於ける君の言行は、我々の心

持を和らげ又楽しませるに、どんなに役立つたか知れない我々が事故一つなく、どうやら一人前の人間として、世の中に出入られたのも、一半は君のお蔭に依るものと、感謝してゐる次第である。

クラスの中には私を始め、なか／＼船に慣れなかつたらしく、船酔者も少くはなかつた。そこで君が嘔吐豫防法を發明した。即ちラムネ玉を應用したもので、何か梅干の種の様なものを食道中に收納して置き、嘔吐し來れば忽ち「ケチヨン」と奇妙なる音響を發して、咽喉を關所として完全に豫防されるのである。爾來我々は船に酔ふ事を「ケチヨン」と稱してゐる。

戸 籍 謄 本

君が發明して我々の一種の隠語として使用し來つた言葉は随分澤山あつた。そうして「ウン」「ウン」と聞いて居ようものなら、其の話はどこまで發展して行くか見當もつか

ぬ位であるし、何處か一部分でも軋まへて反駁すると、だん／＼と小さくなつて行き、遂には「併し此の位ならあり得るだらう」と嘯ぶいてゐるのであつた。

君が色々な話をする時は必ず「僕の叔父はネ……」「僕の従兄弟はネ……」と始めるのであつた。これは話に眞實味を帯びしめる爲めとは充分に判つてゐるが、あまりにも其の出場人員が多いので、我々は君に此の次に歸省の際は是非戸籍謄本を持參せよと、からかつたものである。此の調子だと、多分「三木俊介」と云ふのも出鱈目だらうからと飽く迄戸籍謄本の提出を求めて止まなかつたのである。併し君は何と云はれても、いつもニコ／＼して、後から／＼と罪のない話を作製したり、壁新聞を發行したりして、我々の缺くべからざる存在となつてゐた。その明朗性とあらゆる本を通讀して異常に常識の發達した知らぬ事なしと云つた様な巧みな話振りと、邪氣一つなき性質とですつかり我々を魅惑して、常に我々の中心になつてゐた。君の行く所必ず爆笑快談ありと云はれた。

ビチ／＼交換

第三學年生になつたばかりの四月。調査旅行は一は青森縣下、他は紀州方面で行はれた。我々は殆んど大部分は陰鬱な寒い東北地方より、明るい三重、和歌山縣の方を希望

した。併し君も私も青森組に廻され、しかも同じ調査班だつたが、我々の豫期に反して何處でも痒い所へ手が届く様に世話をし、又實によく歓迎して呉れ、非常に愉快に所期の目的を達する事が出来た。八戸市で行はれた歓迎會の席上、學生各自の自己紹介には、君は堂々と「仁義」を述べて、諸先輩を一驚させたやうだつた。

それから野邊地町に行つた時には、同じく歓迎會場で、漁業組合の何かをやつて居たとおぼしき土地の顔役の一人が、開會直後立上つて、帆立貝の密漁の多い事を憤慨して我々に訴へた。農林省水産講習所と云ふ爲め、多分學校が省内にあるものと思つたらしく、歸京して大臣に會つたら是非傳へて呉れなどと云つた。そして終ひには涙を流さんばかりなので、我々もチャンと座つて、かしこまつて聞いてゐたものだつたが、あんまりひどい東北辯で、笑をこらへるのに随分骨を折つた事を覚えてゐる。君は此の眞似が實に上手だつた。旅行中ズーツと眞似してゐたが何回聞いても吹き出したものだつた。即ち「マヂ第一に述べまシ事は……チマリ……」本町はテチドウが引かれまシ迄は、専らブチ／＼交換を行つて居りましたが……」。此のブチ／＼交換をわざ／＼ビチ／＼交換と云ふ所に、君の面目躍如たるものがあつた。

二年生の時、物理は木村先生の受持であつた。先生には大學を御卒業後、まだ幾何もなく、新進氣鋭の名講義と稱されてゐたが、我々は三科合併だつたのを悪用して、よくサボツタもので、今其の位置を代へて見て實に慚愧に堪へない次第である。君も矢張り其の例に洩れなかつた様であつた。

或る學期の試験問題は「尺八の音響を物理的に説明せよ」と云ふ様なのが一題だけ出された。此れは簡単に判りそうでなか／＼書けず、我々サボリ組は勿論、一般も大分困つて、少しも筆が進まなかつた様子であつた。此の時君のみは獨り、どん／＼涉つて、何枚も／＼答案用紙を請求して我等一同の目を見張らしめたものだつた。そして次週に先生の答案に對する御講評に依つて、始めて君の答案内容が判明して、一同爆笑したものであつた。

それは非常に名文で、尺八には都山流と琴古流とある事、一般に一尺八寸の長さであるが九寸或は七寸のもある事、虚無僧挨拶にはどう、どの穴を明けばどう……等、用紙五枚許りに一パイに書かれてあつた。此れは愛嬌こそあれ、ふざけた點は微塵も見當らず、至極眞面目であつた。従つて先生には、大半は乙でも君には甲を呉れねばならぬ様な餘

儀なき狀況になつた事だらうと思ふ。

私は卒業後一度も君に會ふ機會を恵まれなかつた。従つて卒業後に於ける君の活躍に付いては、僅かに三四會誌を通じて知つたのみであつた。併し各地に於ける級友に目を轉ずれば、在學中には随分茶氣滿々たる者も、今や堂々と活躍し、まさに地方水産界の中堅と垂んとしてゐる狀況である。此れより推せば君の行くとして可ならざるはなき、圓滑酒脱振りは必ずや、地方民に歡喜を以て迎へられて、確實に成績を上げて居つたに違ひない。

學生時代のみ、しかも特別に奇想天外な事件のみを想記するのは、君に對して甚だ失禮にして、心外に堪へないと云はれるかも知れないが、私には先づ此んな事が頭に浮んで來て、やがて次から次へと君の傍が書き出されるのである。

今や水産界は多事多端である。此の時に際して前途有爲の、今後を益々囑望されたる君を失つた事は、軍籍にある身死所其の處を得、皇國のためとは云ひ乍ら、我々のクラスに取つても又帝國の水産界に取つても、損失は甚大なるものにして惜しみても尙餘りあるものである。我々は唯々君の冥福を祈つて止まない次第である。

陣中より動物標本

久保 伊津 男

つい先日、食堂で中食の快談中に同窓の出征勇士の噂話の端に 昨日は北支へ出征中のF君から支那の淡水魚の標本が参りましたと丁度對座したT教授に話したら「オ、それは又」と嬉しさうな満面の笑顔。道のT教授もF君の餘裕綽々振りに二句が繼げない貌、吾々銃後のものあべこべに慰問された體で、皇軍に勇士多しと雖も動物標本を硝煙彈雨の中から母校に寄したものはF君を以て嚆矢とするであらう。こんな兵隊を支那兵等と戦はずのは勿體ない氣がする。

F君、それは「目下北支派遣軍桑原部隊氣付」に勤務中の養三六卒、九大農藝化學に席を置く福田博業君である。彼は昨夏傳家の日本刀を背負つて勇躍○港を解纜、北支の新戰場に出征したのである。標本は天津の少しく西南濁流鎮から中井教授に宛て、送つて來たもので底徑五寸、高さ七寸ばかりの茶褐の瓶にゴム栓をしたホルマリン漬である。これが敗殘兵も居たらうし、戦塵に追はれて無限の焦

燥不安の支那民衆も居たらう混亂に混亂の中を通つて戦地から届いたのかと思ふと感慨無量等と云ふ言葉で誤魔化せない異狀に不思議な氣に襲はれた。今思ふと心ない事をしたものと愛惜の情に責られるのであるが魚や蝦が一杯詰つてゐて取出が困難であつたので、南國産の氣短かさ、割つてしまつた。

「戦争と動物」これは普通には凡そ縁遠いもののようにあつたが、人間の心には度し難い不思議なものがあるらしい。數目前の新聞にも戦線のルポルターージュとして皇軍の負傷兵が第一線から退かねばならなくなつて今迄自分と行動を共にして居た二尾の熱帯魚を前線に運んで置いて呉れ、傷を治して後から行くと新聞記者に頼んだ話があつた。私はこんな記事を見たり福田君から「魚を送つた」と云ふ手紙に接した途端に不思議に思つてゐた外國の戦争映畫を思ひ出した「ベンガルの槍騎兵」と「西部戦線異狀なし」の二つだ。油蟲が戦場の人氣者になつたり、壕から少しでも出

れば必ず狙撃される様なひつ迫した敵前にあり乍ら、自分の銃の先に止らうとする蝶を捕へようとしたりする場面は戦争映畫の技巧としか思へなかつたのであるが。

水講化學教室に在職中も専門の化學とは何のゆかりも無いヒノビウスを飼つたり、鰻や金魚を飼育して見たり「生きものがゐないと勉強する氣になれない」と云つてゐた位心から生き物の愛好者であつた彼である。

然し異國に饑産する魚類を見付けた時、身の戰場にある事を忘れ單なる愛好心は咄嗟に猛烈な科學心に變つたのであらう。皇軍の強さは斯の冷靜、斯の餘裕にあるのであらうか。魚の方は吾々門外漢が見ても如何にも支那らしいのや、奇抜なのが續々あるように見へたが猫に小判の悲しさ、海老名氏や松原氏が査定中なので其の内、氏、素性を明かにして水講の標本室にデビュウする事であらう。蝦は

比較的種類が少くて次の四種が這入つてゐた。

Palaeon (macrobrachium) nipponensis de HAAN

Leander paucidens de HAAN

Leander macrogenitus Yü

Cardina denticulata sinensis KEMP.

前二者は本邦にも普通に見られるもの、次は大陸特産のもので内地産のシラタヘ*Leander japonicus* ORTMANNによく似た奴、最後のものは名に負ふ通であるが最近琉球に産する事を知つた。蝦の標本は魚の中に一緒になつてもまれたためか爆弾に見舞はれた支那兵然たる有様で殆んど大部分が四肢？千切れ、内裂けてゐて略完全なのは*Leander macrogenitus* YÜの一尾だけである。標本室にデビュウすにはちと惨め過ぎるので動物學教室の標本として保管したい。(十二、十二、六記)

神 苑 朝

神松をもるゝ朝日の影清く五十鈴の川にうつる静けさ

心まつきよめられけり神苑のあした静けきもりを仰きて

宮 崎 賢 一

消 息

〔御斷り〕 事變記事は當局の檢閲が不能に陥り急に削除致しました不惡御許し願ひます、従つて頁の番號（二五—三二頁欠）も違つて参りました。

劍友會の集ひ

水産講習所の道場に育てられた幾多の劍士を以て結成さ

れた劍友會も、未だ基礎薄弱で仕事の實行期迄に入つて居ない有様であるが、現講習所劍道部員と先輩との交歓と並び劍友會の將來の動向に關して互に論議する目的で、十一月二十日本所、道場に參じ、現部員の選抜試合、先輩諸氏の模範試合を行ひ、劍を執る者のみの知る醍醐味にひたる

事が出來た。中にも、千葉縣勝浦の漁民道場主幹の志道吉次鍊士漁の堂々たる仕合振り、先輩とは云へ未だ現役を凌ぐ若手の坪谷（漁37）萩尾（漁39）安齊（製39）諸氏の仕合等見るべきものがあつた。終つて、地元深川の富川亭に於て先輩學生の交歓を行つた。席上北支南支に活躍する我が將士の談に移つたのは勿論である。刀の話、白兵戰の有様、等結局我が軍の強味は劍に在る、機關銃、爆彈は一つの牽制に過ぎない、刀は又精神に依る、此處に日本の誇る武士道が在る事に落ち付いた。尙山添先輩の興味ある話、其他の先輩の部員に對する意見等當日の會合の目的は充分に達し得られた。唯當日の他の大目的であつた、恩師であり又尙御元氣で御指導下さる檜山範士の謝恩會をも併せる積りが、先生の御都合で御出席を願へなかつた事は誠に淋しい限りであつた。當日先輩の御出席は左の諸士であつた。

山添兵造、松生義勝、太田知度、清水淳三、志道吉次、草間秀俊、坪谷芳三郎、萩尾堅、安齊清（以上九名）

（草間）

新水會の集ひ

新水會とは水産局内二十七回以後の同窓生を以て組織せられたものであるが近年に於ては事實上局内を打つて一丸



とせる樂水會支部となつて居る。

久方振りに十二月一日新水會は神樂坂一平莊に於て催され集ひたる者總勢三十六名の多きに達し盛大を極めた。席



上石野先輩の提案

にて會員中の出征

者成富、戸田、岡本

の三君に對し慰問

袋を贈る事に一決

夜更くる迄昔に歸

つて歡を盡した。

或者は謂ふ「水

産局に於ける樂水

會閥は既住の夢

と」然るにすらりとキラ星の如く居流れた新水會は壯觀の一語に盡き嗚呼吾未だ亡びずと一堂に會して見て如何に其の意を強ふした事であらう。殊に三善大先輩を始め先輩諸氏が欣然參加せられた事は會員に採つて此の上ない喜びであつた。有意義にして新水會稀なる大收獲であつた。寄せ書中の「新水會」は三善大先輩の筆になる。

會員 移動

(自十一月十六日 至十二月二十日)

(移動並會員名簿訂正)

東京

中村 鐵 太製一七 電話駒込八二四

高橋 千里 漁一八 神奈川縣逗子町櫻山一五四三(轉居)

伊藤 育三 製二九 全國漁業組合協會(轉任)

加藤 忠 漁三八 近衛歩兵第二聯隊歩兵砲隊

宮内 敬三 養三八 兵役(東京第一陸軍病院にて加療中)

野中 順三 製三九 兵衛歩兵第二聯隊第十一中隊

田中 阿歌麿 特別會員 中央大學教授(理博)

京都 中島 庸三 製一 昭和十二年十二月八日死亡

土井 増造 製三四 京都府船井郡吉富村、明治製菓、八木工場勤務

神奈川 久保 要 漁二七 神奈川縣小田原町四ノ五九一

武井 友七 製三八 神奈川縣小田原町十字三丁目五六一、古屋方

兵庫 川本 照雄 製三四 兵庫縣川邊郡稻野村、食品工業株式會社

静岡 靜岡 稻野工場(轉勤)

高橋 八十一 製三六 静岡縣田方郡三島町小中島四三五伊藤方

滋賀 後明 喜好 養二八 彦根市芹橋町九丁目

宮城 吉原 友吉 製三七 仙臺市米ヶ袋仲町六〇、伊藤方

廣島

永井隆三 製三四

日本蜜柑罐詰工業組合聯合會廣島支部へ
勸務

山口

御園生武雄 漁二七

山口縣廳水産課へ轉任
川上三千雄 漁三二
下關市東大坪町一〇

香川

多々良孝一 漁二八

高松市縣廳内水産詭驗場

熊本

鬼塚正 治養一五

屋久島水力電氣會社々長、熊本市會議員

北海道

高久 彰 漁二二

函館市時任町二三二

阿屋

岡屋慶 光 漁二四

北海道日高國評内町吉野町一〇六

朝鮮

高妻政次 傳九

釜山府福田町八四番地

和田

和田英夫 製三三

釜山府湓仙町四四一

關東州

竹中善次 漁三〇

大連市富久町二二八

支那

井上幸夫 製三七

天津、日本租界須磨街、林兼商店北支營
業所

敘任及辭令

(自十一月十三日
至十二月廿日)

十二級俸下賜

地方農林技師 後明 喜好(養二八)
公立實業學校教諭 濱名 龜助(養二二)

八級俸(當分千三百八十圓)下賜

地方農林技師 松島平治郎(漁二五)

十級俸下賜

東京文理化大學教授 高槻俊一(養二五)

補東京文理化大學附屬臨海實驗所長

御園生武雄(漁二七)

地方農林技師ニ任ス高等官七等ヲ以テ待遇セラ
山口縣農林技師ニ補ス 十級俸下賜

正七位 向山豐之進(養二五)

九級俸下賜

地方農林技師 鯉沼英吉(漁二一)

願ニ依リ本職ヲ免ス

地方農林技師 天野壯助(漁一一)

長崎縣農林技師 檜山鐵造(漁二六)

同 下井 誠(製二九)

岩手縣農林技師 田中道知(漁二七)

長崎縣農林技師ニ補ス

地方農林技師 檜山鐵造(漁二六)

岩手縣農林技師ニ補ス

地方農林技師 田中道知(漁二七)

任樺太廳技師、敘高等官七等

樺太廳技師 村井正雄(漁二七)

依願免本官

樺太廳技師 鎌田 穰(漁二〇)

高知縣農林技師ニ任ス、高等官七等ヲ以テ待遇セラ
ル

地方農林技師ニ任ス、高等官七等ヲ以テ待遇セラ
ル

高知縣農林技師ニ補ス十二級俸下賜
地方農林技師 奥野忠雄(養二九)

狂歌 いろいろくず集

もづめの宿禰編

格式のあり形式の定まつている和歌に對して、滑稽を主とした狂歌の歌が狂歌である、これは萬葉集中に見える戯笑歌古今集以下にある俳諧歌がそれである、狂歌の方が自由の立場から率直に詠まれて居ると思ふ、狂歌集は數多あるが、今茲には古今夷曲集、後撰夷曲集、貞柳翁狂哥全集類題、萬載狂歌集、徳和歌後萬載集其他より種々のうろくず、かひ、もの類すなごり等に關するものを抜記して、新春の御笑草としてお目にかける事とする。

くぢら

初 鯨

つきあけて千々に物こそ嬉しけれ我身獨の鯨ならねと

出入のさかなやはつ賣とて鯨に直段の

札をつけて歸るを見て

貞 柳

短冊をつけし年始のくしら賣忠度ならば幾切れもおけ

かめ

寄 龜 戀

夏 虫 妻

萬年もはなれはせじな石龜のかうとやくそくかたき契りは

石龜をよめる

元 信

鷹かとへはぢだんだをふむ石龜のこうはつむとも羽ははえ

しな

龜

貞 柳

難波湯みしかき足のかめは龜つるの長きもよしやよの中

莊萬字といへる人の他の養子にいたり

けふ引移の門出に龜の庭に出しを

三疊のたゝ見

門出に龜は萬字の壽はこれを誠に御吉そう氏

子子孫彦のもとにて新宅によする祝と

いふことを

紀 定 磨

萬代とことふく龜のをがは町鶴のはしらをたてし新宅

わが持たる簀龜を見る人多ければ 風來山人

天が下名を上ることのしるしには多くの人の来てはみの龜

寄 龜 祝

萬年とまうすはおとけ御壽命は百をおこしの龜の尾あたり

う を

卯月朔日魚の棚通りけるに魚ともあま

たあらふをみて

貞 徳

衣かへの今日しもわたをぬかるゝは魚の腹もやう月なるらん

川逍遙にまかりてよめる

久 清

賀茂川の魚の料理は所からたどすであへて鱈にやする

題しらす

久 清

うろくつの生れがはりか海老腰やかます顔にて鰯足の人

題しらす

成 之

魚の名も所によりてかはりけり難波の江鮒伊勢のいせ鯉

題しらす

武 重

魚はくはれ成佛をせばその人の胸の蓮花を座とや定ん

はしめてもくあみだ佛が庵をとひ待る

に芝の浦にてとりしましさをかをおく

り待るとて

けいせうなこん

けふはまたお目にかゝりにまいるとておくるはもとのもく

あみの魚

海邊七種

算木あり政

打寄る波の拍子も芝浦や舟から磯へ魚をはこへら

魚名十

山手白人

こいしさはいかにますかとふくかせのなさけききたいなのさゝはら

た ひ

花下の酒宴によめる

三 哲

鹽竈の花見の酒のさかなには櫻鯛をや濱焼にせん

岡部氏内膳正館にて鯛の料理ありけるに 重 頼

鴈の汁きくの酒のむ秋はあれと春の海邊に濱焼の鯛

櫻 鯛

藤原言總卿

上下にもてはやしつゝ味ふや花も實もあるさくら鯛とて

人のもとより鯛と飯鮓を得て返事に 遠近守一政

あら玉の年のはじめにめでたいといひだこ送りたぶそ嬉し

き

節振舞のうた

保 友

浅みどり糸より小鯛やきものゝ申にもぬける春の振舞

久しくまからさりける人のもとにて鯛

の骨ひれなと肴にて酒たうへつと人の

かたりければよめる

一 圃

あらなりと名にこそたてれ櫻鯛年に希なる人の振舞

松井氏のぬしあるしまうけしけるに相

客の遅かりければよめる 法印玄旨

こぬ人を松井がもとの振舞にやく鹽鯛のみもこかしつゝ

題しらす 一休和尚

人は武士柱は檜魚は鯛きぬは紅梅花はみよしの

牧方を魚荷の通るを見て 貞 柳

魚荷ものこよなふいそく櫻鯛たはこの火散夏の明ほの

岡村道有さる御かたより生鯛を下され

しとて友とする人ひとりふたりをふる 貞 柳

まひける坐にて

下さるゝ鯛そと汗を相伴もあゝうまあんまはらをなてけり

加茂河水きよし宅を京へ引こして住め

と連哥の友よりたひくまうしこされ 貞 柳

ければ

大阪もすめば都の春秋や花櫻鯛すみの江のつき

續家土産の板行催しけるとて坂本坡口屋 貞 柳

めでたいや讀ことのはも板にしてまふくる金の山の噺口

夷子の鯛をつるところ 貞 柳

めでたいに猶めでたいをやりたいたつりのいとまもなき戎

との

わかえひすみさをに釣の祈なほ福をあたへてすゑもめでた

い 釣たれて遊べばいつも若戎色つやまでもよくてめでたい

高繩といふ所にて鯛のうしほ煮をこし

らへて もとの木あみ

うしほ煮に名も高繩や御殿山したうつ浪のはなさくら鯛

いせの國渡會卓彦のもとにて へつゝ東作

今そしるあこきか浦のさくら鯛たひかさなれどあかぬ色と

は 寄鯛戀 門限面倒

色香にはあらはれねどもなまたひのちと御坐つたと見ゆる

目のうち

太神宮奉納百首哥の中に海眺望 鹿都部貞顔

いせの海やだいゝ講に引鯛の目の下ちかくかすむ網舟

題しらす 行 重

色に酒月に芋くふ春秋も冬にはいかて杉焼の鯛

杉焼ある座にて 一 見

料理する魚のめでたい御代なれば身もらくくとすきやき

ぞくふ

題しらす 牡丹花

陸奥のちかゝつへして鹽屋へも歸らずにくふ濱焼の鯛

か つ を

或人初松魚のはしりをかふてふたりに
てさしみに作り喰ふたりといふをきゝ

蛙面坊

はつ鯉ふたりさしみてくふたりと耳にはかりはきいたから
し酔

鯉魚にゑひて

四方赤良

鍋のふた明てくやくしく酔ぬるは浦島か子かつる松魚かも

酔初鯉

ものことの明輔

今更にくひてかへらぬ初鯉酔ふて天窓もうつき朔日

松魚の霜ふりといへるにてらしたるを

たうへて

ものことの明輔

夏の夜も霜降かゝる松の魚こからし味噌に舌をならして

船中初松魚

草やの師あち

はつ鯉釣あけしほの舟の中棹をさしみに今やつくらん

寄松魚戀

ふる瀬の勝雄

初鯉こゑ聞からしみをめては千代をふるせの後も契らん

郭公松魚の優劣いかにといふ人に

から衣橘洲

いつれまけいづれかつをと郭公ともにはつねのたかうきこ

ゆる

寄松魚戀

同

君が名も我名も棒にふる松魚わたりの人の口にかゝりて

鯉

卯雲

かまくらの頼朝殿にとこかにてかつほもよほど大あたまな

初鯉

よみ人志禮多

われ一とまつさきかけてくひぬるは人にかつほのさしみな
りけり

馬屋厩輔

切かつほかふ氣はやみにあらねどもこれも子ゆゑに迷ふ雉
子焼

鯉走地

よしのゝ葛子

地をはしる聲をからしの初かつほうりものこらぬ足のはや
さよ

夏の夜かつほを調理するを見侍りて

むせん法師

まな箸につたふ雫のすゝしさや月もさしみの夏の夜かつほ

秋鯉

雀酒盛

折もよき秋のたゝきの烏帽子魚かま倉風にこしらへてみん

寄松魚祝

名万壽盛方

竹のはをかいしきにせし松の魚ひとふしことに千代やこむ
らん

野見鉦ごん墨かね馬馬

ひとふしをうたふかつほのいはひ哥はやしててうさよいさ

らにもれ

何かしのとのゐ所にかつほのさしみを

おくとて

平生三里季保

ごはん所へうつてかはつた色物をかうでかつほのさしみと

も見よ

首 夏

馬場金崎

花はみなおろし大根となりぬらし鯉に似たる今朝の横雲

更 衣

寛時成

今朝ははや待えし鳥と魚うりと一聲つゝにあはせきてきく

初 鯉

花馬池月

相州の住きれものゝはつかつをけふ手に入てさしみにぞす

る

風糸女

初かつを直もたか〜とよはふ也わきめもふらす足をはか

りに

此道くらき

鯉かふ金のひかりはほし月夜かまくらかしにはつねをぞき

く

目白押合

空をゆく山ほとゝぎすそれならで地にもはねある初鯉かな

吳竹よぼけ

卯花もしらはた色にさきたちてかまくら殿をまつ魚哉

夜 鯉

千鳥友呼

千金のはるのあまりか銀箔の月にかゞやく夏の夜かつを

寄魚戀

此道くらき

しほからになるまで縁のふかゝれとかつほのあたまくたく

戀かな

ぶ り

鯛の料理をみて

貞 徳

料理者の毬打腕でできる魚の名も正月のぶりんぞかし

しはすに鯛與鯛えし返事に

元 信

心にしかけてたまはる鯛のみかかすかす是は御念ころふり

或人の子の出世のいわるにいなたといへる

魚をおくとて

から衣橋洲

いなたまてなりあがりるわかな子の出世は見えた御奉公

鯛

い な た

久しくあはさりける山田氏にいなたと

いへる肴にて酒すゝむるとて

武士八十氏

今もつて酒はやまだのおろちなら出す肴もいなた姫ぞや

さ わ ら

鱈に初蕨を汁の料理にせしかもとにて 淨 治
汁にして魚の名にあふさわらびのこは山海の珍物ぞがし

前關白信尋公へ鱈鮓奉るにそへて申上

ける 言 當

魚扁に春くはゝれる鮓だにもすきなお口にあかれやはする
人のもとより鱈の鮓をえて返事に

右衛門尉藤原武員

近江鮓字治丸あゆの鮓もあれどをされぬ味は鱈なりけり

た ら

鱈を得し返事に 長嘯子

さいまつといひてくれける雪の魚くひたら味のきえくと
せん

題しらす 行 重

あの小鱈三百三文にかふたとや我みるそはて料理あらせ給
へ

榎木氏より鱈と餅をおくらるゝとて

思ふほどしんしやう物はたらね共

心ばかりをもちひこそすれ

とあるにかへし 貞 柳

老か身はすこしもちひてよけれ共好でたらふく賞翫をする

鱈を三本遠方よりもちて來れる人に 椿 軒

いつかまたわすれおきなん道のりもとをくたらの數も三
番更

ある所にて鱈の汁を出しけるととき 同

ねがはくばあのくたらふくたへてみんいま二三はいめうか
あらせ給へ

は た し ろ

伊豫守何がしのもとにてはたしろとい

へる魚を味噌吸物にしていたしければ 山手白人

これも又いよのゆげたの馳走ととをはたしろのみそにな
りけり

た ち の う を

鮓 行 風

西の海の浪のひらりとひかめくは朝日にむかふ太刀魚の色

ある勇士の主人より鯨與鮓拜領の時座

にありてよめる 重 次

手柄には勘状のみかこのしろにそへて給はる銘の太刀魚

述 懷 貞 柳

長生をしたるばかりにひれもなし昔の鯛や今の太刀魚

い は し

銚子口のいはし名物なれば 高 故

くむ酒もてうし口より出にける生鱒こそよき肴なれ

追 儼 人並面成

ひいらきのひらりとみえし赤鱒そりやぬいたはと逃る鬼の

子

は も

鱧のすりみ一品のふるまひにあひて 貞 柳

門徒なればみたを唱ふることはも肴くひく吟して味は

ふ

く ち

伴新之丞といふ人のかたよりくちとい

ふ魚おくられるに晩かたかへり状の

かへりことに 貞 柳

伴さまに歸りて御報申候先いんしんのしやうのくち見て

ふ ぐ

河鈍汁に茄子を入れば毒をなさぬと人

のいひければよめる 保 友

死ぬといへどくふてもしなすとしよるはふぐと汁にはなす

ひ故なり

河豚汁 貞 柳

楊貴妃のちゝはすいたか其中にころり寐釋迦の北枕して

ふぐと汁よくあぢはふて誰も見よ阿波の鳴門は北まくらな

し

寄河豚釋教 椿 軒

すひ口のねき觀音のちからにて腹は佛や五體ふぐ汁

河豚汁遠舊 濱邊黒人

葱大根口薬ほどにほはせて遠音のひくつぼろの汁

去かたへ行しに大勢寄て鰻をみて値段 樋口氏

付る様子なれば 鐵炮にちと引かねも有かとして皆打寄てあたりてぞみる

雪の日友のもとより河豚くひにこよと

いひこしければ から衣橋洲

命こそ鵝毛に似たれなんのそのいさ鰻くひにゆきのふるま

ひ 山手白人

河豚汁

われがちにあらそふてくふふくと汁もりかへのある命あら

ねど

雪中河豚 帆南西太

魚の名をむさとはなすなけふの雪に身をあたゝむる種か島

ぞや

醫師食鰻 から衣きつ洲

雪の日に千里もはしるとら鯨は竹のやぶ醫もくすりとやく

ふ

武士食鯨

山道高彦

もとよりもいかものゝふの腹なれば鐵炮汁の玉はあたらず

庭雪

鹿都部眞顔

かけありく犬をもいとふ庭の雪にまたるゝものは河豚の横

飛

河豚汁

朱樂菅江

わが命あふにはよしやかへすとも河豚にしかへはさもあら

ばあれ

唐來參和

ふぐゝふて身はなきものとなるとても雪のふる日はあつく

こそなれ

條門橋丸

佛にはとてもならぬ身にしあれば飲酒もやぶれ五體ふぐ

汁

かれひ

王余魚與鯛えし返事に

満水

年毎のかれひといひてめでたいをくるゝは過分至極月哉

こひ

前關自信尋公へ淀鯉奉るにそへて 昌俊

折よくば申させ給へふたつ文字牛の角もし奉るなり

返し

魚の名のそれにはあらずひまのおりちと二文字牛の角もし

鯉をえさせける人の書札に扁を誤りて

才扁に書こしける返事に

宇吟

山芋うなぎに化する證據もて鯉をたぬきになす扁もあり

鯉と餅一重到來したるに

貞柳

老ぬれば心ばかりはこひの道せめては口へもちひこそせめ

鴨の涼のころ御手洗川の邊に納涼して

鯉屋助六が生簀の鯉を料理させて

こいよしと御手洗川にせし味噌煮けふは生簀もへりにける

すみだ川のほとり牛島といふ所に中田

屋といへる酒家ありみな人これを葛西

太郎とよぶいけすの鯉に名あり

平秩東作

庖丁がとく牛島のあらひ鯉かいしく芹のはさへこぼれず

哥舞妓工 中村重助

川風に髪そゝけたる人ばかりあらふてくふは鯉のひやもの

四方赤良

ふたつもし牛の御前のむかふ島太郎が鯉はいけの中田屋

編輯後記

謹みて新年を賀し奉り、併せて黄河畔に、浙江の野に活躍を續けられてゐる皇軍の武運長久を祈るや切であります。

對支膺懲の聖戦も南京を陥落せしめて今や漸く第二期に入り、益々多事多端なる昭和十三年を迎へ、倍舊の緊張と、更に新なる覺悟を必要としてゐます。

北支、中支共に我と志を同じくする自治政府誕生して、共に手を携へて東洋平和に猛進せんとしてゐる時、吾等水産人も進んで北支、中支否更に南支水産の開發に直接又は間接にかゝはらず努力して、水産報國の一端を盡さうではありませんか。

樂水は今月號より一般同窓の御動靜を主とした記事として、論説めいたものは總て研究誌の方へ廻す事と致しました。従つて同窓會、同級會の記事も出来るだけ多くおせて行き度いと思ひます故、地方樂水會のことも洩れなく大小に不拘、御送附下さい。又従軍せられてゐる方々の記事は勿論寫眞等もどんなものでも結構ですから御送

り願ひたいと思ひます、寫眞は必ず御返し致します。尙この樂水の編輯に關しては、色々とお意見もあることゝ存じます故、何卒御遠慮なく御叱正を願ひます。

編輯委員も日夜よりよき會誌の編輯に没頭して居りますが、物價の高騰の爲、委員の理想の一端より實現出来なく、一同大いに残念に思つて居りますが、新春を迎へて一層の緊張と努力を以つて、會員諸兄の御期待に添ふべく覺悟してゐる次第です。何卒皆様におかれても駕馬に鞭つ御氣持で一段の御鞭撻の程願ひます。

尙例年は喪中の廣告を新年號に入れましたが、急に十二月號に載せ、残りは正月に入れました故、右御了承願ひます。

末筆乍ら支那各地戦線に御活躍中の同窓各位は勿論皇軍將士の御苦勞を謝し、御健勝を祈りつゝ筆を擱く。
(豊田)

謹賀新年

編輯部員一同

本誌定價

一ヶ月分	一册	金四十錢
一ヶ年分	十二册	金五圓 (郵税二錢)

廣告料

特等	一頁	金貳拾五圓
一等	一頁	金貳拾圓
普通	一頁	金十五圓

昭和十二年十二月廿八日印刷納本
昭和十三年一月十五日發行

(毎月一回十五日發行)

東京市江戸川區小岩町三ノ一、九五

編輯兼發行人 笠谷 尋信

東京市芝區愛宕町二ノ十四 印刷人 渡邊 丑之助

東京市芝區愛宕町二ノ十四 印刷所 常磐印刷株式會社

發行所 東京市深川區越中島町水産講習所内

發行所 社團法人 樂水會

振替口座東京一二六四番

東京市日本橋區通二丁目

發賣所 丸善株式會社

振替口座東京五番

農林省
水產講習所
御指定

船塗測

具料機



合資
會社

鈴木船具店

東京市京橋區湊町三丁目二十三番地

支店

電話京橋(56)六七九番
振替口座東京九四三〇八番
橫濱市中區海岸通五ノ二〇
電話本局(2)一六五五番

水產關係
諸官省及會社
御用

山添式漁網防腐染料

日本定置漁業研究會御證明品

- 一、定置漁網、鮭鱒及蟹網等ニ效果最顯著
- 一、常ニ研究ヲ續行、最優良品創製ニ努力
- 一、一層ノ御引立ト御後援トヲ乞フ

静岡縣伊東町

製造
發賣
元



共隆舍

電話伊東一八
電略「キリ」
振替東京四一〇三三

漁網船具油金索具
燃機類物類



地番貳拾參町之岬市關下

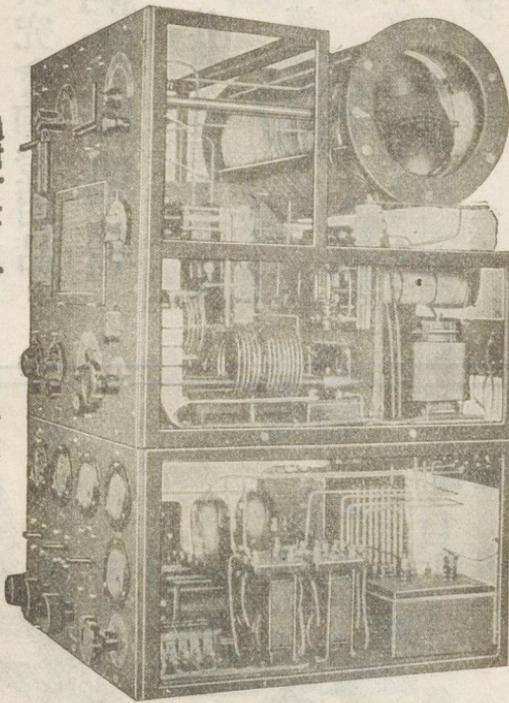
日本漁網船具株式會社

營業所 東京、函館、基隆、大阪、清津、戶畑、大連

船用無線



漁船用 (S-PG型)



船用無線電信電話装置
陸用無線電信電話装置
無線鐵塔船舶電氣設備

短波、水晶制御式

通信方式ハフリークイン式

代理店
○本社は特に神奈川縣三崎町(電話二二六番)に
を設置しあらゆる船主各位の御便宜を圖りつゝあり御利用を乞ふ

中波 併用無線電信電話装置

角田 無線機 株式會社

本社 函館市鶴岡町七拾番地

電話 0377番 0951番

支店 東京市日本橋區北新堀町十三番地

電話茅場町 (66) 0337番 0479番

會 告

一、會員各位への御知らせ

本會では毎月樂水(十五日發行)及水産研究誌(一日發行)を發行致して居りますが會員への通信は成可く樂水を利用して掲載して居りますから御注意願ひます。

二、本會の會費

本會の會費は年額五圓で毎年五月より九月迄の間に御納め願ふ事になつてゐます。本會では五月下旬より毎月集金郵便で徵集する事に致して居りますから、集金人が來ましたら御不在の時でも必ずお納め願ひる様に御手配をして置いて下さい。

三、終身會費

一時に金五拾圓以上を御納めになれば終身會費として爾後會費を徵集致しません。特に一ケ年間(四月より翌年三月迄)以内に合計五十圓を分納されても差支へありません。

四、會員名簿

毎年十二月上旬に會員名簿を發行して居りますが、九月下旬より印刷の準備に取掛つてゐますから、前年の會員名簿發行後に、轉任及移轉等をなされた方で未だ本會に届出のない方は至急十月末日迄に御通知下さい。

五、會員への慶弔

會員中古稀の齡に達せられた方には記念品を差上げます。會員御不幸の際は弔辭並に香華料を贈呈致します。

御知合の方の御不幸の場合は至急御知らせ下さい。

六、會員相談部

職業その他について本會では常務理事が御相談に應じます。

七、上京中の居所

會員中上京せられた方は滞在期間と宿舍を本會へ御知らせ下さい。

八、會員各位へお願い

イ、水産研究誌及樂水へは奮つて御投稿下さい。

ロ、會員の方は轉任及轉居された時は先づ第一に本會へ

通知することを忘れないで下さい。

九、本會の役員及職員

理事長 高橋 熊三

常務理事 武藤 禮二

會計理事 庵原 順一

編輯理事 庵原 順一

理事 村山 敏三

監事 酒井森三郎

書記 日暮 忠
筈谷 尋信

松生 義勝

清水 亘

牧野 謙二

安川 隆

關根 儀吉

加隈 良介

熊凝 武晴

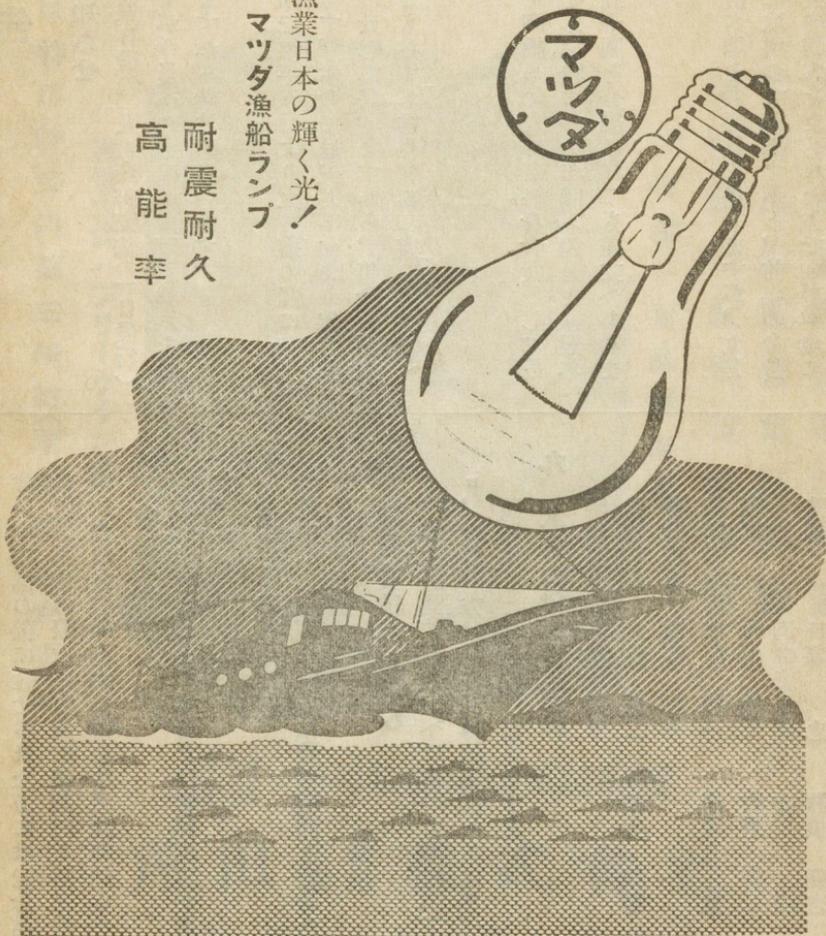
栗田 要吉

加隈 良介

マツダ漁船ランプ

漁業日本の輝く光ノ
マツダ漁船ランプ

耐震耐久
高エネルギー



製造元 川崎市 東京電氣株式会社

新年お芽出度う御座います

正しく乾坤は旭旗を中心として同一轉いたしました 歳首寔に曠古の重大な契機と光榮とに直面して千思萬感胸に溢れざるを得ません

皇軍神武忽ち北支不測の沃雲を拂ひ江南暴戻の狂濤を制壓し 皇道大悲早くも四百餘洲に光被し新春蘇生の瑞氣は脈々大地を搏つて日々に播かりつゝあるは實に感喜祝福に堪へないところであります

此日此時大日本は眞に大日本たらんとしてをります 願はくは百難を我に與へたまへ 決心は巖の如く牢乎たり 意氣は火の如く燃ゆ 我皇運扶翼の大道には門が無いのであります 謹而 寶祚の無窮を祈り 皇軍將士に滿腔の謝意を捧げ御武運の長久を禱り 併せて會員諸賢の御健康と御奮闘とを庶幾す

昭和十三年元旦

樂水會理事長 高橋熊三

樂水會役員及代議員(卒業順)

川合角也 理事長 高橋熊三 監事 日暮忠 理事 武藤禮二

中村嘉壽 監事 關根儀吉 丸川久俊 國司浩助

松下高 木下辰雄 若林忠雄 長棟暉友

監事 加隈良介 深山義道 神谷尙志 理事 牧野謙二

理事 村山敏三 理事 松生義勝 中井信隆 中村鑛太

理事 栗田要吉 清水淳三 岩崎狷二 根岸勝彌

堀重藏 理事 庵原順一 小石安一 古川武毅

堀越一三 馬場孟夫 岩本正一 理事 酒井森三郎

理事 清水亘 三村卓雄 理事 安川隆 理事 熊凝武晴

渡邊正雄 草間秀俊 宇賀明 高山重嶺

豐田正謙 井上義雄 增田正一 鈴木順

紫原多聞 松井魁 鈴木喜幸 淺井正夫

野村利兵衛

正

賀

樂水會地方幹事

賀

正

京都府	大阪府	神奈川縣	兵庫縣	長崎縣	新潟縣	群馬縣	千葉縣	茨城縣	三重縣
牛窪其三男	高碓達之助	田中林三	前田九平	石田鐵郎	大石榮三郎	乾明太郎	細川可也	岸田十雄	井澤次男
根岸勝彌	大島愼二	高島胤雄	日比谷爲造	靜岡縣	滋賀縣	岐阜縣	長野縣	福島縣	宮崎縣
後藤節藏	青木三雄	平木治	長田正男	五十嵐昭	河合盾丸	幸田伴治郎	龜井顧一	內海直國	鯉沼英吉
尾藤信正	熊澤楠吉	大村三樹之助	戶井田盛藏	岡山縣	廣島縣	山口縣	和歌山縣	德島縣	
牧義男	小林章之	小島省吾	佐々木三治	上村忠彦	片山年	海老塚健一	澁谷光時	丹治經治	奧津興美
伊東猪六	堀井恒次郎	仙波平馬	橋爪英士						

賀

正

香川縣 明山保次郎

愛媛縣 菊山武雄

高知縣 甘利集基

福岡縣 樋口邦彦

岩本千代馬

河野光三

大津津

大分縣 小安正三

佐賀縣 江熊哲翁

熊本縣 村井英雄

宮崎縣 峰辰三

鹿兒島縣 矢吹正夫

水戸川暹一

沖繩縣 栗屋協二

新井藤一郎

北海道 鎌田武造

倉上政幹

白井勝三郎

外山源吾

鎌田穰

與儀喜宣

青木越雄

三木源吉

金子政之助

松田鶴次郎

梅本儀助

北野退藏

淵山貞

中島正一

沼田礎助

姉帶定助

河村兵三

樺太

臺灣

朝鮮

關東州

南洋

賀 正

東京府 (申込順)

農林省水産講習所

- 杉 浦 保 吉
 中野區宮前町二
 以下イロハ順
 庵 原 順 一
 江戸川區小岩町二ノ二七〇五
 岩 本 正 一
 深川區富岡町一ノ二〇ノ一
 出征 稻 葉 傳 三 郎
 蒲田區蓮沼町一三四
 井 上 義 雄
 深川區、水産講習所寄宿寮
 羽 原 又 吉
 世田ヶ谷區世田ヶ谷二ノ一一三〇
 長 谷 川 漸 成
 豊島區雜司ヶ谷一ノ三五一

新 野 弘

世田ヶ谷區世田ヶ谷三ノ二四二〇

堀 重 藏

目黒區富士見臺一、五四二

保 科 利 一

深川區、水産講習所内

富 山 哲 夫

杉並區中通町二三

富 樹 建 造

目黒區自由ヶ丘二二九

岡 田 郁 之 助

横濱市保土ヶ谷區神戸下町三三八

岡 本 清 造

深川區水産講習所内

岡 田 光 世

麻布區斧町一七三

大 谷 武 夫

澁谷區櫻丘町二七

出征 大 坪 儀 作

江戸川區小岩町三ノ一四九七

片 山 房 吉

大森區調布嶺町一ノ七五

川 口 武 男

世田ヶ谷區玉川等々力町一ノ二四二五

加 藤 精 一

澁谷區代々木山谷町二六四

川 上 太 左 英

沼津市沼津實習所

高 山 重 嶺

杉並區阿佐ヶ谷三ノ五二〇

田 中 耕 之 助

板橋區練馬南町一ノ三四六一

(洋行中)

棚 橋 鐘 一 郎

品川區大井瀧王子町四四一〇

賀 正

中 井 信 隆

瀧野川區中里町三九二

長 棟 暉 友

杉並區松庵北町七八

宇 野 道 夫

本郷區駒込上富士前町五

久 保 伊 津 男

深川區永代二ノ五二、吉田方

草 間 秀 俊

牛込區市ヶ谷臺町二四

山 内 爲 之 輔

瀧野川區西ヶ原町一、〇八〇

山 田 う た

芝區白金三光町二五〇、山田
佐紀方

松 生 義 勝

市川市市川二ノ三七七

松 原 喜 代 松

豊島區巢鴨六ノ一二五三

小 石 安 一

小石川區小日向臺町三ノ一一

小 谷 和 夫

江戸川區小岩町三ノ一九三〇

近 藤 仁

深川區水産講習所、寄宿寮

海 老 名 謙 一

中野區小湊町二七

寺 尾 新

淀橋區柏木町三ノ四二二

相 原 一 郎 介

神奈川縣鎌倉町雪ノ下四〇六

安 心 院 助 一

小石川區竹早町一〇四

篠 山 武 次 郎

世田谷區北澤三ノ八九三

猿 谷 九 万

杉並區大宮前六ノ三三六

木 俣 正 夫

目黒區上目黒六ノ一、五五六

深 山 義 道

澁谷區代々木富ヶ谷町一、三
八八

三 浦 正

目黒區三田三五

三 村 卓 雄

小石川區白山御殿町一二八

峯 村 三 郎

埼玉縣蕨町、五五〇八

宮 本 秀 明

王子區上十條一八〇

白 鳥 昌

豊島區巢鴨七ノ一、八五四

東 道 太 郎

牛込區余丁町六八

牛込區余丁町六八

牛込區余丁町六八

賀

正

妹尾次郎

府下北多摩郡保谷村下保谷二
一二

鈴木順

市外武藏野町吉祥寺二二三

白鷹丸(南洋航海中)

中川甚藏

世田谷區北澤一ノ一、一二五

伊東祐一

横濱市神奈川區上反町三八

安原良男

杉並區高圓寺四ノ五四九

山崎竹治

中野區大和町一四一

山田純三郎

豊島區雜司ヶ谷町六ノ一、一
二一

守屋武

深川區水産講習所氣付白鷹丸

齋藤宗一

世田谷區松原一ノ六八

團野新一

本郷區駒込林町二三八

瀧口佐左衛門

深川區水産講習所氣付

神鷹丸

熊凝武晴

芝區白金三光町二七六

在原千秋

市川市市川五ノ五八三

飛田仁助

杉並區永福町三〇四

尾島勘次郎

杉並區永福町三五七

樂水會

笠谷尋信

江戸川區小岩三ノ一、九二五

農林省水産局

漁政課

三善春雄

中野區城山町四一

徳久三種

〇〇
澁谷區代々木富ヶ谷町一、四

戸井田二郎

蒲田區糞谷町一ノ六〇

田口長治郎

澁谷區代々木上原一ノ四〇

龜田精一

杉並區下高井戸二ノ七八二

太田知度

板橋區練馬南町二ノ三六一九

中谷熊楠

大森區上池上町二三六

小林世紀

杉並區荻窪二ノ二〇四

賀 正

山 内 謙

中野區打越町五二

畑 中 主 計

江戸川區小岩町三ノ一、五〇七

多 田 稔

目黒區上目黒五ノ二五九四

岡 伯 明

麴町區下二番町九、岡方

戸 田 勉

菊 池 莊 彌

本郷區駒込林町一九七

中 川 恣

淀橋區柏木一ノ一五七

山 本 正 三

浦和市仲町四ノ七四

淺 井 政 夫

本郷區駒込林町四八

岡 本 善 夫

應召中

喜 多 村 勇

大森區馬込町東三ノ八一八

監 督 課

江 副 元 三

豊島區池袋三ノ一、三九三

藤 田 要 太 郎

大森區池上本町二五五

野 崎 民 平

大森區田園調布二ノ八三八

中 山 琢 三

杉並區西高井戸一ノ二二五

山 口 慶 四 郎

浦和市大谷場五

川 添 爲 一

中野區水川町二八

十 川 正 夫

大森區堤方町九三三

西 墻 朝 祐

杉並區東田町一ノ五六
南 氷 洋 出 張 中

谷 巖

淀橋區西大久保二ノ一九三
南 氷 洋 出 張 中

竹 之 内 彦 四 郎

大森區南千束町一七〇

中 村 新 七

杉並區荻窪一ノ四四

有 井 重 治

杉並區成宗一ノ九〇
南氷洋出張中

増 田 正 一

杉並區高圓寺四ノ五二七

宮 崎 武 夫

赤坂區水川町四〇、山内方

彌 勒 四 郎

正 賀

海洋課

長 田 景 貞

世田谷區代田二ノ七二八

石 野 敬 之

澁谷區代々木西原町九二〇
電話四谷七四八〇

栗 田 要 吉

板橋區練馬南町二ノ三七九七

小 川 良 藏

深川區新大橋二ノ一ノ四、
(白鳳丸乗組)

深 井 惣 平

浦和市外田島六九

成 富 信 男

應召中

森 川 友 一

澁谷區代々木上原町一一二四
大森方

崎 島 乙 好

一月十日、徳島四十三聯隊へ
入營豫定

阿 部 重 市

山口縣萩市越ヶ濱、一月十日
廣島輜重兵第五聯隊入營豫定

漁船保険課

柴 戶 雅 一

板橋區練馬南町二ノ三、七一
七

小 久 保 政 雄

江戸川區小松川四ノ六〇

柴 原 多 聞

澁谷區向山町五三、向山アバ
イ

農林省經濟更生部

副 業 課

江 島 悅 次 郎

目黒區自由ヶ丘八八

竹 林 靖

澁橋區西大久保二ノ二二九

農林省水産試驗場

(イロハ順)

石 井 一 美

小石川區第六天町二四

星 野 三 郎

澁橋區戸塚町二ノ七五

林 壽

澁谷區糶田二ノ三〇

岡 本 五 郎 三

杉並區大宮前二丁目六一二

神 谷 尙 志

世田谷區三宿町九三

宇 田 道 隆

世田谷區玉川奥澤町三ノ一、
〇三〇

日 下 部 臺 次 郎

蒲田區女塚町三ノ八ノ四

賀 正

山 本 祥 吉

本郷區千駄木町五〇ノ七

丸 川 久 俊

世田谷區世田谷二ノ一、一三〇

源 生 一 太 郎

小石川區丸山町一三

藤 森 三 郎

府下北多摩郡武藏野吉禰寺二五二八

小 西 芳 太 郎

澁谷區穩田一ノ九〇

酒 井 森 三 郎

杉並區杵掛町三九

天 野 慶 之

八王子市上野町二〇

佐 藤 允

世田谷區玉川奥澤町三ノ九六五

木 村 金 太 郎

杉並區西高井戸二ノ三〇

木 村 喜 之 助

豊島區駒込六ノ七七〇

蓮 見 三 郎

京橋區月島東仲通九ノ一

東京府廳農林課

牧 野 謙 二

杉並區天沼一ノ二四〇

西 村 和 雄

大森區大森五ノ三九

高 橋 清 三 郎

淀橋區上落合二ノ五五一

鶉 澤 久 則

荏原區中延町五五三

安 西 功

荏原區下神明町一六四

東京府水産試驗場

蒲田區糞谷町五丁目
電話大森五三六七

笠 村 確

大森區堤方町二五〇

山 田 一 男

蒲田區糞谷町一ノ二三五

小 林 利 章

中野區江古田町一ノ二、一一九

内 山 良 夫

西多摩郡吉野村柚木、吉野養魚場

東京府水産試驗場大島分場

東京府下伊豆大島渡浮港

林 賢 三 郎

森 田 末 歲

石 丸 惇 次

賀

正

日魯漁業株式會社

松 下 高

浦 和 市 本 太 三 七 八

中 村 鑛 太

本 郷 區 駒 込 林 町 一 五 四

松 田 悅 郎

世 田 谷 區 下 馬 町 二 一 一 一 二

渡 邊 正 雄

杉 並 區 高 圓 寺 五 八 四 九

日本定置漁業研究會

川 合 角 也

杉 並 區 西 高 井 戸 二 二 六

關 根 儀 吉

世 田 谷 區 下 馬 町 二 一 〇 八 六

日本鮪類罐詰業水産組合

鈴 木 直 辰

馬 場 孟 夫

(外遊中)

富 永 靜 彦

芦 川 榮 一

鈴 木 四 郎

三井物産株式會社

本店、營業部

野 村 康 雄

原 武 雄

本店、金物部地金掛

高 橋 重 治

本店、新潟出張員

吉 澤 滿

食品工業株式會社

中野區小瀧町二番地

林 米 五 郎

宮 崎 文 四

荒 井 虎 之 助

名 嘉 元 岩 太 郎

川 本 照 雄

田 村 健 治

株式會社 新潟鐵工所

小 濱 泰

牛 込 區 矢 來 町 一 二

竹 本 正 文

淺 草 區 田 島 町 一 二 二

池貝鐵工所發動機部

芝 區 本 芝 四 一 五

山 根 撥 一

株式會社 丸山製作所

井 田 助 作

瀧 野 川 區 昭 和 町 三 四 六
電 話 駒 込 一 四 三 五 番

日本フイツシユミール水産

組 合

日 本 フ イ ツ シ ュ ミ ー ル 對 獨

輸 出 共 販 會

小 林 敏 行

市 外 吉 祥 寺 七 一 七

賀 正

日本輸出鱈罐詰業水産組合

谷 口 直 太 郎

品川區大井瀧王子町四、三七
五

二 戸 一 磨

本所區龜澤町二ノ一九

大日本鹽業株式會社

麴町區九ノ内二ノ六

福 島 政 吉

旅館 天心館

河 野 恭 一 郎

牛込區山吹町二二三
電話牛込三、九二一

日本鮭鱈罐詰業水産組合

武 藤 禮 二

東京市大森區入新井三ノ一四
七(電話大森三、七二二)

寺 門 弘 隆

東京市中野區上ノ原町三一
(電話中野四、八四七)

西 磐

東京市目黒區宮ヶ丘一七一四

大 沼 豐 吉

青森市安方町一九二

廣 瀬 郁 郎

横濱市磯子區磯子町字產地二
三七

鶉 澤 利 彦

東京市品川區西品川五ノ一〇
一六

春 元 一 能

東京市荏原區小山町一一〇
小山莊内

秋 元 英 男

千葉縣市川市市川二ノ三七六

水産通信社

岡 本 正 一

赤坂區青山南町六ノ一三二

機船底曳網同盟會

古 閑 義 康

中野區西町二九

日本水産株式會社

國 司 浩 助

植 木 憲 吉

大日本水産會

木 下 辰 雄

雁 部 松 三 郎

全國漁業組合協會

高 草 美 代 藏

小 石 季 一

奧 村 伊 三 郎

清 水 隆 道

馬 場 政 二

伊 藤 育 三

根 本 嘉 博

鈴 木 善 幸

賀 正

荻尾 堅
小林 隆太郎

安藤商店

店、神田區多町一ノ二
電話 神田二二七八番

安藤 俊吉

宅、府下北多摩郡拜島村
電話 拜島、二番

荏原區古市町四四

國分 善一

王子區稻付町一ノ四〇一

中島 行一

府下北多摩郡國分寺村

多喜窪二五六二

村上 豐彦

品川區北品川四ノ五四三

平野 友安

品川區大井森前町五四三五

大塚 三平

杉並區馬橋二ノ一九一

小澤 理陽

府下、下保谷二一二

妹尾 秀實

目黒區駒場町七四七

谷村 重忠

日本水産株式會社

ドライアイス工場

本間 豊

京都府 (申込順)

京都府水産講習所

齋藤 敏夫

柳田 四郎

吉坂 象二郎

藤村 健治

大阪府 (申込順)

大阪地方專賣局

大阪浪花區

岩井 龜治

大阪市住吉區帝塚山中五ノ六

東洋製罐株式會社

本社、大阪市此花區草開町

高碕 達之助

前澤 織衛

田村 光三

(米國出張中)

野口 洲六郎

根岸 吉郎

本社研究所

大阪市北區北扇町
市立工業研究所内

志賀 岩雄

外村 達三

大阪工場

大阪市此花區草開町三〇

森井 瓊夫

賀 正

伊集院兼清
中春重夫

東京工場

東京市品川區北品川五丁目

堀越一三

矢作清司

野中順三九

小林泰

清水工場

清水市日之出町一丁目

毛利重之

高草木雅雄

長田菅男

家田潔

(出) 征 中

廣島工場

廣島市西天満町下水入五〇一

小林浩之

(出) 征 中

戸畑工場

戸畑市戸畑開三二

土信田章三郎

松本泉

山崎力

青森工場

青森市浦町字野脇一二五

松本武

(出) 征 中

今仁高

高雄工場

高雄市三塊厝五〇八

西山榮一

釜山府大橋通二ノ七七

朝鮮出張所

松川行雄

日本水産株式會社

鶴町第一冷凍工場

鈴木里司

大阪市大正區鶴濱通一ノ一

神奈川縣 (申込順)

神奈川縣水産試驗場

寺井正雄

神奈川縣水産會

笠松彌一

櫻井泰藏

足柄下郡水産會

青木高次

株式會社 野崎商店

横濱市中區相生町二ノ四七

松坂省輔

横濱市中區本牧町和田一〇 (電話本局一、七二二)

米田繁三

横濱市磯子區芝生町三ノ二二五 (出征中)

賀

正

田端 信二

横濱市中區相生町野崎商店
(出征中)

川本 一 義

横濱市神奈川區白樂町一七

安齋 清

横濱市中區相生町野崎商店内

四ツ菱食品株式會社

横濱市中區中村町五ノ三二五

濱口 文 二

大岩 東 助

吉岡 正

開進組

横濱市中區本町三ノ二九

中島 吉 十 郎

宇賀 明

丹羽 修 二

同 函館支店

函館市 仲濱町

高木 達 雄

同 神戸支店

神戸市神戸區海岸通五ノ二六

見山 泉

梶山 玄 之 助

日本蟹罐詰聯合會

横濱檢査所

横濱市中區北仲通二ノ一七

淵崎 顯 三

清水 俊 雄

小野 豐 樹

田中 健 二

柳澤 成 悌

横濱市鶴見區東寺尾町一六〇

一ノ一

清水 淳 三

神奈川縣中郡南秦野村今泉六
四七

兵庫縣 (申込順)

兵庫縣水産試驗場

明石市船町三五

鴨脚 七 郎

加藤 利 夫

向山 豐 之 進

山中 孝 太 郎

服部 繁 夫

石原 政 男

東原 正 雄

内橋 潔

鶴田 三 郎

清水 定 明

川西倉庫株式會社冷藏庫

神戸市新港町、税關構内、第一突堤側

萩原 實 次

武庫郡本山村野寄七塚六八一
ノ二

賀 正

西 越

七 神戸市湊區平野下三條町一五

赤穂東濱鹽業組合

角 田 鶴 雄

兵庫縣 赤穂 町

兵庫縣三原郡阿那賀村

仲 野 九 郎

兵庫縣經濟部水産課

永 島 義 弘

神戸市湊區神田町二三二

矢 板 開 一

神戸市灘區深田町一ノ八

春 木 克 巳

明石郡垂水町垂水ビル

長崎縣 (申込順)

長崎縣水産試験場

乾 明 太 郎

八 尋 武 良 次

菊 池 鶴 松

下 井 政 誠

福 田 政 信

長崎縣廳水産課

篠 原 正 規

檜 山 鐵 造

和 田 正 三 郎

長崎縣水産製品検査所

橋 爪 友 四 郎

堀 田 文 雄

長崎縣定置漁業研究会

松 尾 秀 夫

月川罐詰工業株式會社

長崎縣五島福江町

森 谷 茂

新潟縣 (申込順)

新潟縣立能生水産學校

西頸城郡能生町

池 田 良 作

樺 島 年 安

增 田 三 安

安 藤 清 峻

新潟縣水産試験場

三島郡寺泊町

岸 田 十 雄

越 田 秀 包

岸 川 由 太 郎

松 尾 博

埼玉縣

埼玉縣大和田町大字西堀八八

和 智 熊 太

賀

正

群馬縣 (申込順)

群馬縣廳

安井章

福田隆道

群馬縣水産試驗場

井澤次郎

石井省一

清水定明

千葉縣 (申込順)

千葉縣水産試驗場

千葉縣安房水産學校

福岡國男

野本市次

岡本鐵三郎

千葉縣水産試驗場

内灣分場

内藤新吾

千葉市新宿町一ノ二三六

長島幸吉

市原郡五井町川岸

増田守夫

千葉縣水産試驗場勝浦分場

夷隅郡勝浦町(電話勝浦一〇九番)

川原七郎

勝浦町上町

本部眞之

勝浦町出水

千葉縣水産會

關原東太

千葉市長洲町一ノ九

千葉縣廳水産課

根岸勝彌

千葉市葛城町八四

新井準

千葉市千葉寺町一五

三重縣 (申込順)

三重縣水産試驗場

志摩郡濱島町

(イロ順)

西野強

高山活夫

田中仁平

三重郡川越村川越市場

村上正男

保田義夫

北牟婁郡尾鷲町、尾鷲支場

松本友雄

秋本月壽

日比谷爲造

賀

正

三重縣廳水産課

高島胤雄
清瀧千代夫

愛知縣 (申込順)

愛知縣水産試験場

井上良治
村瀬二郎
小野寺元雄

静岡縣 (申込順)

静岡縣水産試験場

後藤節藏
清水市上清水堂林三六六

長谷川金衛
清水市入江岡一、〇二八

江良至徳
清水市入江岡九六五

岩谷斌
清水市清水二八七 岩崎方

同濱名湖分場

稻葉俊
山本精二

静岡縣經濟部水産課

砂原作治
静岡市浅間町二ノ四三

伊藤順男
静岡縣廳內

焼津水産學校

堀田美櫻男
志太郡焼津町焼津北二三六

倉本三郎
志太郡焼津町

静岡縣水産會

久米二次
清水市上清水二七七

小金丸増次郎
静岡市水落町一ノ一八

清水食品株式會社

村上芳雄
清水市上清水二七七

大蝶武夫
清水市築地町 同社内

津田眞平
清水市築地町 同社内

松本政典
清水市築地町 同社内

清水水産株式會社

徳永盛雄
清水市上清水堂林三二四

日本鮪類罐詰業水産組合

清水検査所

富永静彦
清水市下清水二五四

正 賀

後藤罐詰所

今 西 俊 雄

清水市清水七六七

沼津食品株式會社

水 島 幸 一 郎

沼津市本字竹ノ後

田 村 龜 太 郎

沼津市本町本字杏形、會社內

三共商會

田 所 豐 太 郎

庵原郡蒲原町

森永食品工業株式會社

三島工場

高 橋 八 十 一

田方郡三島町小中島四三五

伊藤方

青 柳 正 二

田方郡三島町宮倉 加藤方

山梨縣

山梨縣經濟部商工課

澤 田 進

甲府市久保町二十八

長野縣

長野縣廳商工水產課

長 田 正 男

小 林 武

長野縣明科魚類增殖場

茂 木 喜 一 郎

木 暮 岳 彦

水產試驗場木崎分場

長野縣北安曇郡平村

川 尻 稔

宮城縣 (申込順)

宮城縣水產課

幸 田 伴 治 郎

仙臺市二本杉通二二

廣 瀨 篤 郎

出生中 自宅東京市外小金井町、一三四六 大久保操方

宮城縣水產試驗場

河 合 盾 丸

佐 々 木 武 雄

武 久 伊 作

菅 原 兼 男

瀧 田 登

宮城縣水產學校

武 田 直

鈴 木 儀 八

中 村 捷

高 橋 福 治

正 賀

長瀬三郎
坂尾太熊
(出征中)
宮城縣水産試験場

吉田秀一
清野文二
宮城縣氣仙沼市
關口徳藏

福島縣

福島縣水産試験場
五十嵐
菅野健
山城
昭一盛

岩手縣 (申込順)

岩手縣水産課
内海直國

増田秀治郎
田中道知
裏辻公博
馬場吉信

青森縣 (申込順)

青森縣水産試験場

尾藤信正
飯野良佐
八戸市鮫町
小淵元吉
西津輕郡深浦町
青森縣立水産學校
本田鹿人
八戸市山伏小路
菅三郎
八戸市鮫町

金子尚
八戸市鮫町

青森縣廳水産課

熊澤楠吉
青森市長島町一一五

建部豪
青森市北片岡一六九

伊原治
青森市浪打町五五五

青森縣水産會

東郷保一
青森市浪打町五七ノ一

秋田縣

秋田縣廳商工水産課

松浦朝之

秋田縣水産試驗場

大村三樹之助

賀

正

藤 本 榮 司 毅

秋田縣水産會
早 野 力

福井縣 (申込順)

福井縣廳商工水産課
森 本 敬 義

福井縣水産會
庄 司 與 市 郎

福井縣水産試驗場
牧 義 男

渡 邊 直 人

川 名 義 武 夫

坂 部 義 夫

福井縣立小濱水産學校
戶 井 田 盛 藏

小 池 正 保
檀 野 房 治
山 村 彌 六 郎
(出 征 申)

石川縣 (申込順)

石川縣水産試驗場
小 林 章 之

富山縣 (申込順)

富山縣廳商工水産課
佐 々 木 三 治

松 根 約 郎
松 下 政 雄

富山縣水産講習所
小 島 省 吾

內 田 孝 雄

外 岡 元 雄
村 上 龜 次 郎
小 林 繁
楠 原 廣 吉
肥 塚 康 一

鳥取縣

鳥取縣水産試驗場
上 村 忠 彦

五 十 嵐 徹 夫

鳥取縣廳
安 西 敏 雄

島根縣 (申込順)

島根縣水産課

海 老 塚 健 一
松江市外中原町中ノ丁

賀 正

大谷正猛

遼摩郡大森町

高本等

松江市外中原町中ノ丁

永川保雄

松江市南田町中ノ丁

八代喜代

松江市南田町四一

若山貞三

遼摩郡温泉津町

島根水縣產試驗場

坂本寅市

(八束郡玉湯村養殖場)

片山一年

尊田寛一

岡山縣

岡山縣水產試驗場

澁谷光時

野口博

岡山縣廳商工水產課

本田三郎

岡山縣水產會

永井寛次

廣島縣 (申込順)

廣島縣水產試驗場

丹治經治

廣島市東千田町四三九

同草津支場

土井久之

廣島市昭和町五九七

田村松太郎

廣島市草津南町九四七

林茂樹

廣島市草津南町

船坂義郎

廣島市古田町字田方

廣島縣廳水產課

川上雅之

廣島市古田町古江九三〇

川崎洛三

(出征中) 留守宅廣島市西白鳥町一三九

龜本太郎

廣島市段原新町三一八

北川吉美

賀茂郡川尻町

日柑工聯廣島支部

永井隆三

廣島市商工會議所内

正 賀

廣島市荒神町土手

楨 田 作 藏

山口縣 (申込順)

下關市後田町八三

渡 會 絹 三 郎

山口市伊勢門前

奧 津 興 美

山口縣廳水産課

後 藤 豪

山口市道場門前七一

三 浦 兼 佑

山口市下立小路 片岡方

下關市稗田八三四

小 林 宗 一

朝鮮漁業合資會社

下關市西細江町

佐 藤 敬 吉

山口縣水産試驗場

瀬戸内海分場

小 川 博 民

防府市前小路四六四 (千秋改)

日本漁網船具株式會社

函館營業所

白 井 勝 三 郎

函館市谷地頭町三四

角 南 貞 雄

函館市時任町一〇八

東京營業所

坪 谷 芳 三 郎

東京市麻布區笹笥町二六

本 社

保 田 武 夫

下關市十五莊園

宮 本 武 德

(出 征 中)

長 豐 次

(出 征 中)

新 美 廣 秋

下關市丸山町松風園

今 井 一 二

下關市東大坪町壽町一九

南 清 藏

下關市上田中町一四六九

青 野 宏 市

下關市長崎町湖心莊

川 副 二 郎

(出 征 中)

堀 江 禮 助

下關市上田中町一四六九

戶畑營業所

林 卯 吉

戶畑市澤見仲町一五二

賀 正

基隆營業所

城山 正三

基隆市東町七一

清津營業所

末山 福治

朝鮮清津府日本漁網營業所內

大連營業所

竹中 善次

大連市富久町二二八

西郷 正男

大連市對島町一三 對馬莊

株式會社林兼商店

本社(下關市竹崎町六一番地)

伊東 猪六

黑田 藤五郎

清藤 太郎

和田 秀政

川上 三千雄

富岡 三郎

(出) 征

白山 凡

幸田 洋三

(出) 征

松本 楠義

(出) 征

兒玉 實

菊池 弘

上田 大

佐藤 寅吉

吉田 議士

神原 英三

長崎支店(長崎市旭町二丁目)

木村 呈

大阪營業所

(大阪市西區京町堀上通五)

川口 久四郎

青森支店(青森市新安方町八一)

南里 武彦

鮎川捕鯨事業場

(宮城縣牡鹿郡鮎川村)

松澤 幸

基隆支店(基隆市濱町五三)

加藤 平吉

金近 英男

日高 久

朝鮮支店(京城府南大門通四)

秋山 俊一郎

方魚津營業所

(慶尙南道蔚山郡)

大塚 辰雄

清津營業所(清津府目賀田町)

永山 洋平

滿洲販賣部(錦縣彰市街)

井上 幸夫

賀 正

三和製氷株式會社

(宮城縣鹽釜町門前)

目 黒 徳 太 郎

大洋捕鯨株式會社

(東京市丸ビル六三三)

三 宅 好 美

小 屋 勝 之

富 澤 武 雄

新 原 宗 治

竹 田 繁 夫

丹 下 稔

中 尾 宇 健

康 田 謙 正

棟 久 芳 祐

和歌山縣 (申込順)

和歌山縣商工水産課

木 村 宗 太 郎

友 野 信 次

和歌山縣水産試驗場

仙 波 平 馬

西 川 定 一

谷 崎 正 生

(出 征 中)

山 本 三 郎

和歌山縣水産會

吉 田 直 道

德 島 縣

德島縣商工水産課

橋 爪 英 士

德島縣水産試驗場

野 口 利 夫

古 賀 勝 見

渡 邊 實

香川縣 (申込順)

香川縣廳商工水産課

加 藤 喜 八 郎

高松市二番丁一七

香川縣水産試驗場

明 山 保 次 郎

高松市西濱新町五四四

山 田 豐

高松市幸町一一四

多 々 良 孝 一

高松市新港町、水産試驗場内

金 村 秀 雄

高松市新港町、水産試驗場内

安 藤 伊 太 郎

香川縣三豐郡詫間村字詫間

香川縣水産講習所

園 部 久

高松市宮脇町一一一

賀 正

海野勝司

高松市新港町水産講習所内

水越幸雄

高松市新港町水産講習所内

香川縣坂出町新開

白石立見

高知縣 (申込順)

高知縣水産試験場

甘利集基

今村龍雄

川邊三郎

石井源太郎

關根宗三

福岡縣 (申込順)

福岡縣廳

河野光三

川本壽雄

(宗 覆 郡 神 湊 町)

楠本俊夫

福岡縣水産試験場

福岡市須崎裏町

大津清

山口九州男

福岡縣水産試験場

豐前海研究所

築上郡八屋町、宇島

北島岬

福岡市鳥飼町三丁目

樋口邦彦

電話 三二〇 一番

時節柄賀狀差控申候

日本水産株式會社

戶畑營業所

戶畑市汐井崎町

岩本千代馬

斐田靜夫

朝日向昇

眞田健三

内村忠夫

山下行雄

上田哲夫

木村喜次

吉村勇郎

菅谷久

德島喜知

佐藤極

鈴木薰郎

小寺確

德岡敏

高島貞夫

武田嘉七

野原哲夫

加藤忠

染野松雄

正 賀

大分縣

(申込順)

大分縣商工水産課 五十嵐俊藏	鈴木健吉 原田薰 朝隈達也 鈴木權次郎 小安正三 伊藤祐雄 大分縣水産試驗場	上野忠次 吉富治 吉本三郎 橋本源八 小橋山節 栗原二 玉木明 上西太郎
-------------------	--	---

佐賀縣

(申込順)

熊本縣水産試驗場 熊本縣廳構内	末野口榮三郎 永見兼重 松本利一 佐賀縣水産試驗場	稻津榮治 江熊哲翁 山口明則 島本正美 門倉富士雄 佐賀縣水産試驗場
--------------------	------------------------------------	---

宮崎縣

宮崎縣水産會 宮木周一	佐藤鉦一 杉山延里 大坪眞幸 宮崎縣廳商工水産課	日高久彌 峯辰三 宮崎縣水産試驗場	黒田竹彌 熊本市大江町大江七〇九 吉田方	長岡正幸 熊本市大江町大江五一六	村井英雄 熊本市藥園町四三
----------------	-----------------------------------	-------------------------	----------------------------	---------------------	------------------

正

賀

鹿兒島縣

鹿兒島縣水產試驗場

枕崎町

矢吹正夫

金子安治

古川順一郎

日下部誠一

鹿兒島縣立枕崎水產學校

水戸川暹一

濱名龜助

竹内實秋

鹿兒島縣加世田町

面高慶之助

沖繩縣

(申込順)

沖繩縣立水產學校

栗屋協二

那覇市下泉町二ノ三六

永井敏

那覇市下泉町二ノ四二

沖繩縣水產試驗場

大内義男

那覇市上泉町三ノ三八

木原佳郎

那覇市下泉町二ノ九二

金井元

那覇市上泉町三ノ一

北海道

(申込順)

北海道廳水產試驗場

倉上政幹

吉田敬雄

梶田與之亮

木下虎一郎

土井久治

澤田都次

黒田柝雄

平野義見

中川一三郎

本橋邦郎

清水二郎

樋口鵠之助

津田美津彦

中嶋由太郎

北海道廳經濟部水產課

齋藤光雄

松崎秀雄

甲藤健夫

白鳥健壽

尾崎順三郎

飯泉功郎

村田三郎

新村大郎

鈴木正二郎

賀

正

北海道水產物検査所

吉田

實

澤登 謹

次

華島 親

敬

北海道鮭鱈孵化場

三浦 五郎

水產試験場根室支場

根室市千島町

杉孝 政

藤田 周吉

釧路國支廳

高橋 五郎

(舊姓袖岡)

北海道水產物検査支所

北海道十勝國廣尾

上村 秀雄

函館高等水產學校

山本 清内

函館市本町七五
電話 四七三九

大垣 光平

函館市松蔭町一二

札幌市南六條西十七丁目

藤田 經信

函館樂水會

日魯漁業株式會社

(電話三四〇〇番電)

谷本 坂惠

函館市の場町一一二

高瀬 重之

函館市本町三九

村上 次郎

函館市本町五

沼野 鉦吉

函館市柏木町二四四

家坂 孝平

函館市松蔭町八

柳谷 善吉

函館市杉並町一六一

小林 小一郎

函館市枝並町三二

小笠原 秀雄

函館市柏木町三〇三

石田 壽之

函館市松蔭町二九

高久 彰

函館市時任町二三二

小俣 信親

函館市松蔭町二九

富崎 善吾

函館市本町五

大久保 嘉壽彦

函館市船見町三〇

賀 正

眞 田 幸 次

函館市五稜廓町一五

太 田 久 隆

函館市杉並町七

佐 藤 正 夫

函館市松蔭町一五一

内 田 康 次

函館市本町五〇

武 井 政 雄

函館市本町一〇五

加 藤 喜 太 郎

函館市本町一

利 行 正 雄

函館市外湯川町八〇

大 石 幸 平

函館市外湯ノ川町深堀

日魯正氣寮社宅

荒 木 寛

函館市五稜廓町七

鳥 居 正 明

函館市柏木町二五七

山 田 貞 二 郎

函館市杉並町一四八

三 浦 滋 雄

函館市杉並町七四

瀧 澤 巖

函館市時任町一

雨 宮 榮 藏

函館市本町三五

及 川 英 雄

(出征中) 函館市松蔭町六一

北 原 隆 貫

函館市時任町八二

甘 利 久 吉

函館市杉並町一七三

駒 井 青 南

函館市川原町七

日 向 義 次

函館市時任町四二

多 賀 宗 將

函館市時任町六一

佐 藤 七 郎

函館市松蔭町一、二

小 川 義 一

函館市新川町一五二

高 桑 勝 次

函館市本町一一二

加 藤 康 治

湯ノ川町湯尻二二 堤方

千 田 喜 市

(田島改名) 函館市青柳町一五

吉 川 淳

函館市本町九〇青木 政雄方

田 中 敏 夫

函館市一〇八 今井方

賀

正

土屋 小一

函館市西川町一二 万代館

菅野 進

函館市相生町五四久保アイ方

大須賀 四郎

函館市青柳町三三

進藤 正雄

函館市松蔭町九八

柳橋 進

函館市元町一八 佐藤方

筒井 三郎

函館市柏木町一七二 福土方

崎山 守久

函館市柏木町三〇八

國村 雅二

(出征中) 日魯正氣寮

山本 芳雄

函館市青柳町一八 粟野方

寺瀬 經夫

函館市曙町一八

今村 豐

日魯正氣寮

林包 雄

日魯正氣寮

吉津 綱人

(出征中) 日魯正氣寮

清水 房雄

東京市深川區水産講習所專攻科在學

金子 伊喜雄

函館市谷地頭町七四

田淵 進

函館市宮前町八〇

永井 逸平

日魯正氣寮

谷正 二

日魯正氣寮

尼崎 保

日魯正氣寮

宮崎 博

日魯正氣寮

本間 節郎

日魯正氣寮

三橋 賢二

日魯正氣寮

三橋 淳

函館市惠比須町五四 磯邊方

石塚 辰雄

函館市天神町一二四

日魯台町製網所

(電話 八四七番)

佐藤 清治

函館市本町一八

日魯研究所

(電話 四三一七番)

賀

正

小倉善平

函館市元町四八

野口恭夫

函館市谷地頭町八七

日魯七重濱造船場

(電話 一二一四番)

渡邊六藏

函館市松川町一一〇

吉川長之進

函館市杉並町八八

幌筵水産株式會社

(電話 三四〇〇番)

紀谷金之助

湯川町字鯨川一五

池山光藏

函館市富岡町彌生湯方

吉澤源藏

函館市柏木町一六一

樺太漁業株式會社

(電話 三四〇〇番)

增田久家

函館市本町五四

寶田穎作

函館市本町二八

岡村正久

函館市柏木町一七二

關口得郎

函館市時任町二

菅谷敬三

(入 管 中)

太平洋漁業株式會社

(電話 四八七〇番)

鎌田武造

函館市本町三

外山源吾

函館市本町二二

小田積美

函館市曙町一四

山田勝衛

函館市外湯ノ川町鯨川一五

鈴木德三

函館市外駒場町一九

林丈夫

函館市西濱町三九

永井政司

函館市柏木町一七六

諫早隆夫

函館市柏木町三四一

品田藤次郎

(出征中)函館市松蔭町七六

安達三郎

函館市鶴岡町二九 石塚方

根緒正武

湯川町駒場二〇 田中方

賀 正

田口喜三郎

日魯正氣寮

大塚敏夫

鶴岡町石塚方

日本製罐株式會社

(電話三四五三番)

有賀松夫

函館市本町二〇

大石義秋

函館市船見町三五

佐藤兼一郎

函館市壽町二四

妹尾滿喜夫

函館市蓬萊町一、甲子寮

由井十七三

函館市蓬萊町一、甲子寮

北海道漁業罐詰株式會社

(電話一二八〇番)

渡邊照平

函館市松蔭町五五

酒井茂喜

函館市谷地頭野一五

旭章

函館市船見町六五

日本水產株式會社

函館營業所

(電話五二一〇番)

木村成松

東京市大森區雪ヶ谷二三二

芳賀岩次郎

函館市元町四四

葛城忠男

函館市柏木町三一

松尾我何人

函館市松蔭町二〇二

原口安雄

函館市杉並町一二〇

山口虎雄

函館市杉並町一六

堤正夫

函館市青柳町三三

土井武夫

函館市宮前町七〇

高木正司

函館市元町三九 北島金次方

伊藤威雄

函館市柏木町三三八

飯塚正雄

函館市時任町五五

飯野増太郎

函館市杉並町一八九

中島瀧藏

函館市五稜廓町一四

東邦水產株式會社

(電話一九五番)

賀 正

宮 田 光

函館市元町四八

長 東 三 四 士

函館市本町六六

菊 地 五 郎

函館市東濱町六万世ビル三階十九號

山 城 利 敷

函館市壽町一 小林方

神 保 茂

(舊姓藪内) 函館市谷地頭町九四

菅 原 貞 一

函館市東濱町六万世ビル一五號

前 埜 松 司

函館市千代ヶ岱町一〇〇ノ二 影山方

内 山 晋

函館市元町一七 菊地方

北海道水産試験場

函館支場

(電話 三九八五番)

小 林 茂 雄

函館市辨天町一

函館市役所

(電話 三二〇〇番)

近 藤 辰 雄

函館市柏木町二三四

函館水産學校

(電話 四七五番)

荻 原 茂

上磯郡上磯町七重濱町三六七

近 藤 止 三

上磯郡上磯町七重濱町三六七

山 下 武 雄

函館市松蔭町一二

高 野 善 衛

函館市水産學校内

日本輸出鱈罐詰業水産

組合函館検査所

(電話 四六六八番)

秋 澤 不 二 雄

函館市八幡町八五

日本蟹罐詰業水産組合

聯合會函館検査所

(電話 四六三六番)

齋 藤 一 雄

函館市船見町九三

日本鮭鱈罐詰業水産組合

函館検査所

(電話 四六〇〇番)

鵜 澤 俊 彦

函館市會所町二二 高橋方

北千島漁業運送合資會社

出張所 (電話 二六〇二番)

賀 正

鈴木幸太郎

函館市本町三三

北千島水産會

(電話 三七二七番)

石井文吉

函館市富岡町一

日本漁網船具株式會社

函館營業所

(電話 五一八〇番)

白井勝三郎

函館市柏木町二三八

角南貞雄

函館市時任町一〇八

北千島合同漁業株式會社

(電話 二八七二番)

小和田金吉

函館市沙見町二二

曲淵市太郎

函館市時任町八五

合同漁業株式會社

函館出張所

(電話 四一九七番)

霜村平七

函館市柏木町三一二

川田四郎

(出征中) 函館市松蔭町

太田要

函館市東濱町六 万世ビル一四號

酒卷義司

會社 丙

伊藤四郎

(出征中) 函館市相生町三三八

新興水産株式會社

水谷碧

會社 丙

函館定溫倉庫株式會社

(電話 七二五番)

黑須時夫

函館市元町一八 加藤方

函館冷蔵株式會社

(電話 二五一三番)

岡田正人

函館市時任町九八

函館製網船具株式會社

新川工場

(電話 三五一四番)

青木京一郎

函館市時任町六二

開進組函館出張所

(電話 八〇四番)

高木達雄

函館市仲濱町開進組内

賀 正

函館地方專賣局

(電話 一 一七九番)

宮 良 當 宴

函館市大森町五七

栖原漁業株式會社

(電話 四二二一番)

郵 井 拾 吉

函館市大町三

帝國火藥工業株式會社

函館油脂工場

(電話 四一七六番)

佐 田 作 郎

函館市時任町六二

日本油脂株式會社

北海支店

(電話 三八一〇番)

稻 見 彌 一 郎

函館市杉並町七七

三 輪 源 造

函館市西濱町會社內

藤 井 眞 澁

函館市西濱町會社內

日本海產工業株式會社

函館出張所

(電話 三八一〇番)

中 須 辰 二

函館市時任町二三六

奥 川 教 孝

函館市船見町二九

西 堀 良 造

函館市時任町七九

佐 脇 哲 郎

函館市元町四七

中 山 留 八

函館市旅籠町一〇

菅 宮 清 吉

函館市松川町三一

田 代 正 治

函館市杉並町一三九

後 藤 林 英

函館市中島町六三

松 尾 雅 朗

函館市柏木町一五九

合同漁業株式會社

小樽本社

橫 山 將 來
黑 田 元 治

賀 正

畑 中 正 雄
 合同漁業株式會社
 函館出張所

霜 村 平 七
 酒 卷 義 司
 川 田 四 郎
 太 田 四 郎
 伊 藤 四 郎

樺 太 (申込順)

樺太廳水産課
 村 井 正 雄
 川 越 庸 樹
 小 森 武 雄
 堀 内 直 一
 鈴 木 正 助
 樺太廳水産物検査所
 田 中 仁 吉

岡 本 曉
 樺太大泊町本町西一條

鎌 田 穰

臺 灣 (申込順)

臺灣總督府水産課内
 與 儀 喜 宣
 平 塚 均

臺灣水産會

佐 々 木 武 治

臺灣總督府水産試驗場

(基隆市社寮町)

金 村 正 巳

牧 重 昂

矢 崎 春 夫

青 山 志 麻 次

臺灣總督府水産講習所

成 澤 不 二 男

大 熊 保 道

基隆市濱町一七
 水産講習所官舎

杉 田 豐 藏

基隆市濱町一七
 水産講習所官舎

臺北州水産試驗場

戶 村 忠 臣

基隆市濱町五三

日本水産株式會社

臺灣營業所

林 準 二

小 園 龍 次

渡 邊 亨

伴 三 綱

佐 々 木 龍

井 上 常 吉

臺中市旭町三ノ四

賀 正

山村 牧夫

臺中市川端町五

須田 義次郎

臺南市清水町三ノ三

青木 赴雄

臺南市港町二ノ一二〇

臺灣製麻株式會社

臺南市

中村 信治

朝鮮 (申込順)

朝鮮總督府殖産局水産課

北野 退藏

永田 徳太郎

岡田 仁弘

筧 梁

久納 勝太郎

朝鮮總督府水産製品検査所

京城本所

山内

釜山支所

小野

神藤

木浦出張所

中村

浦頂出張所

渡邊

注文津出張所

大圃

新浦出張所

阪田

庫底出張所

石田

清津支所

白石

超一

功一

積

昇

要

一

夫

義

河上 一雄

咸鏡北道水産課

沼田 礎助

羅南、道廳官舎四號

朝倉 要三

羅南、初瀬町七二

關野 正藏

羅南、道廳官舎十二號

中野 幹雄

羅南、東本町友屋旅館

京畿道水産試驗場

(京畿道仁川府萬石町九〇)

美川 秀信

仁川府萬石町九〇、京畿道水産試驗場舎宅

井山 鞆雄

仁川府花房町二ノ九

慶尙南道水産課

三木 源吉

賀

正

和田長三
井上彌太郎

慶尙南道水産試驗場

太田正一

松澤定五郎

杉浦秋一

半谷武八

慶尙南道乾海苔海藻檢査所

松野三郎

慶尙南道漁業組合聯合會

相澤毅

平安北道産業課

梅本儀助

新義州府雲井町九ノ八

吉本清秀

新義州府本町四、馬揚方

全羅南道産業部水産課

松田鶴次郎
光州府瑞石町五六

中島計次
光州府不動町五

小見山樹
光州府光山町二七

星尾安喜
光州府光山町九屋旅館方

咸鏡南道水産試驗場

中嶋正一

宇野壽一

磯崎哲太郎

末松寛

元山水産振興會

緒方惟孝

黃海道廳産業課

藤本政男
海州邑北旭町一三一

全
海州邑上町一七二、崔郭淳方

務安郡海苔漁業組合長

下村省三

蠣島漁民訓練所

川瀬薰

乾海苔檢査所木浦支所

高橋直利

全羅南道水産試驗場

金子政之助

倉掛武雄

日本水産株式會社朝鮮支店

原金藏

京城府長谷川町二一

富士ビル三階

能美漁業株式會社

朝鮮咸北漁大津

三井所四郎

正 賀

關東州 (申込順)

川上 一郎

大木 盛三郎

朝鮮釜山府水晶町一、〇〇八

關東州廳

大連市長者町

伏本 政樹

松岡 嘉三郎

吉富 和吉

關東水産試驗場

大連市老虎灘

姉帯 定助

永井 福三郎

市村 新要

山本 新八

紺谷 平治

關東州水産會大連魚市場

大村 道一

大連市向陽臺一

東洋拓殖株式會社大連支店

本村 惟

大連市松山臺九ノ三

日滿漁業株式會社

江島 靜男

大連市伏見町一ノ二

鈴木 榮一

大連市青雲臺石松方

日本漁網船具株式會社

大連營業所

竹中 善次

西郷 正男

大連市對馬莊一九

普蘭店民政署

相墨 春夫

關東州普蘭店街

南洋

木村 林太郎

大連市眞金町八八

柳生 大三郎

大連市初音町二八八

岩本 清太郎

大連市晴明臺七〇

南興水産株式會社

南洋パラオ島

小林 茂

川上 善九郎

海外

新嘉坡ミツドル路一七六號

有坂 利一

自宅、市外吉祥寺三五一番地

賀 正

追

加 (申込順)

日 暮 忠

東京市豊島區長崎東町一ノ九
六七

エル・レイポルド商館

越 智 章

東京市中野區鷺ノ宮二ノ九二

千葉縣御宿實業學校

海 老 原 忍

石川縣珠州郡三崎村

川 崎 德 左 衛 門

岩手縣立水産學校

龜 井 顧 一

富 永 盛 治 郎

鈴 木 鉦 三

岩 橋 量 一

根 本 哲 天
本 村 嘉 雄

岩手縣水産試驗場

鯉 沼 英 吉

金 井 準

酒 向 昇

岩 田 正 一

茨城縣水産試驗場

石 田 稜 威 雄

石 川 龜 好

東京市芝區三田小山町

宮 崎 賢 一

南洋水産協會

加 藤 勢 三

東京市目黒區上目黒八ノ五二三

日本冷凍協會

高 橋 照 文

東京市豊島區巢鴨五ノ二二九

朝鮮江原道長箭港
大 庭 重 行

喪 中 缺 禮

喪中に付年賀缺禮

仕り候

水産講習所

橋 本 常 隆

五 東京市深川區富岡町一ノ三ノ

青森縣立水産學校

村 上 義 威

八 戸 市 鮫 町 上 鮫

東京府水産試驗場大島分場

米 澤 六 藏

東京府下伊豆大島、波浮浜村

日本鮭鱒罐詰業水産組合

會 田 時 天

東京市豊島區西巢鴨町二ノ一
九九八

沖繩縣立水産學校

永 井 正

那覇市美榮橋町二ノ三四

福岡縣水産試驗場有明海分場

福岡縣水産製品検査所

兼 本 盛 光

福岡縣山門郡沖端村

滿洲、チ、ハル小林部隊

佐藤隊

白 井 春 雄

日魯青森冷蔵庫

岡 田 勝 夫

青 森 市 柳 町 五 二

福井縣立水産學校

池 田 二 郎

福井縣小濱町西津八ノ五〇

北海道廳釧路支廳

佐 々 木 政 之 助

釧路市富士見町官舎

年十二治明立創

圓萬拾五千壹金本資

ワイヤロープ
マニラロープ

(一ヶ年生産額)

參 萬 噸
壹 萬 貳 千 噸
~~~~~  
漁業用、船舶用  
共 他 用

特 許 專 賣

製 品

不反撥性鋼索 (シノサイ式鋼索)  
ワイヤ入漁業用麻綱 (コムバウンドロープ一號乃至四號)  
防 腐 マニラ綱 (麻ノ葉印)  
荷造用ワイヤ及機械 (包 裝 用)  
鋼索切斷機 (倉庫、店舖、甲板用)



# 東京製綱株式會社

東京市日本橋區吳服橋三丁目五番地

賞 受

- 名譽大賞牌 (平和記念東京博覽會)
- 優良國產賞牌 (大禮記念國產振興東京博覽會)
- 優良國產名譽大賞牌 (大禮記念京都大博覽會)
- 名譽大賞牌 (海と空の博覽會)
- 大賞 (最高賞) (第四回發明博覽會)

工 場

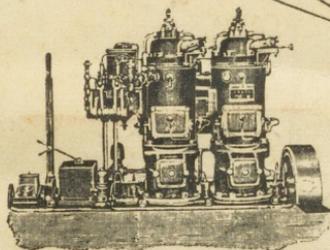
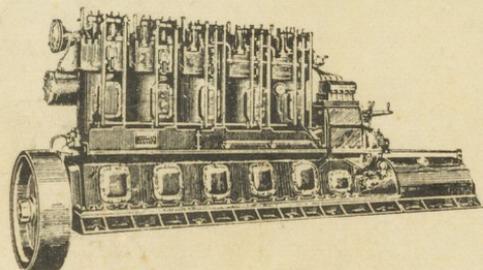
- 川崎工場
- 兵庫工場
- 神戶工場
- 小倉工場
- 小倉市場

# ニイガタ

ディーゼル機関 自九十馬力 至九百馬力

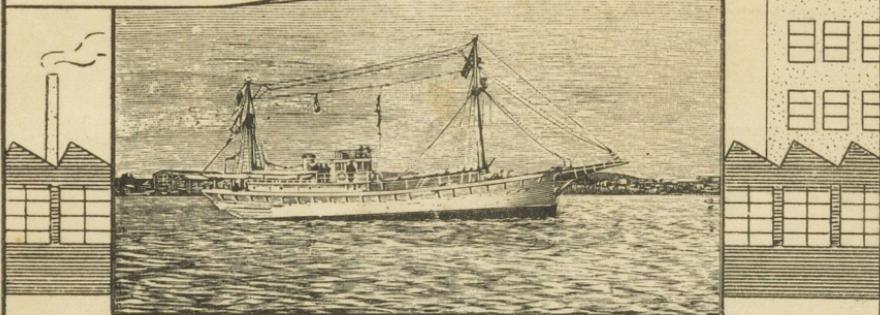
無注水式  
重油發動機

自十二馬力  
至百九十馬力



ディーゼル漁船

鐵船及木船  
良船試驗船運搬船等



株式會社

新潟鐵工所

本社 出張所

東京市丸ノ内三ノ四(有樂館)  
電話丸ノ内 1201 ~ 1205

大阪市北區中之島(朝日ビル)  
京城市長谷川町百十六(京成ビル)

昭和八年三月三十日第三種郵便物認可  
昭和十二年十二月十八日印刷  
昭和十三年一月十五日發行  
樂水 第三十三卷第一號 通卷三七二號